（月刊「技術士」通巻703号　令和７年７月１日発行　付録）
この「技術士だより・九州」は、九州本部所属の正会員・準会員の方に九州本部広報誌として送付しております。

# 技術士だより・九州

公益社団法人 日本技術士会九州本部　夏季号＜第144号＞（令和７年７月15日発行）

## 「かごしま未来応援隊（KMO）」活躍中

県内各地のインフラ施設で、しろくま隊長をはじめ、６つのキャラクターが”ドボク”を身近に感じていただこうと県内各地で頑張っています。KMOは、鹿児島県土木部が土木・建築の魅力等を情報発信していくためにつくられたキャラクターです。それぞれドボクに親しみのもてる特徴、趣味をもって語り掛けてきます。この夏鹿児島県を旅行される時どこかで視線を感じられるのでは。KMOのプロフィールは【かごしま未来応援隊】で検索！

高畦（たかあぜ）　博（ひろし）（建設、総合技術監理・鹿児島）

## 目　次

巻頭言 …… 1
私の提言 …… 2
声の広場 …… 3
熟練技術士の声 …… 5
修習技術者の声 …… 6
私のチャレンジ …… 7
土木遺産シリーズ（40） …… 8
ミニ特集 …… 9
中央・統括本部情勢 …… 12
委員会・部会報告 …… 14
支部だより …… 19
CPD報告 …… 21
会員ニュース …… 22
青年技術士交流委員会勧誘記事 …… 24
第51回技術士全国大会(熊本・九州沖縄) … 25
協賛団体会員 …… 27

## 巻　頭　言

# 熊本県の土木行政について

熊本県土木部長　**薦田（こもだ）　武志（たけし）**

皆様には、日頃から本県土木行政はもとより、県政の推進に御支援、御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本県においては、昨年12月に新たな県政運営の基本方針である「くまもと新時代共創基本方針」を策定しました。この基本方針に掲げる「県民みんなが安心して笑顔になり、持続的で活力あふれる熊本の未来を共に創る」という基本理念のもと、「くまもと新時代」の実現に向け、県庁一丸となって取組みを推進しています。

本県は、平成28年熊本地震や令和２年７月豪雨など相次ぐ自然災害を経験し、今も創造的復興に取り組んでいます。「県民の命、健康、安全・安心を守る」という基本方針の柱のもと、甚大な被害を受けた被災市街地については、今年度中の全線供用を目指す県道熊本高森線の４車線化をはじめ、益城町木山地区の土地区画整理、人吉市青井地区の土地区画整理の推進に全力で取り組んでいます。また、球磨川の「緑の流域治水」の推進については、流域治水プロジェクトや河川整備計画に基づき、河川整備や宅地かさ上げなど、流域の安全・安心の確保に向けた取組みを進めています。五木村、相良村の振興においても、国道445号、県道宮原五木線の整備や川辺川の整備などスピード感をもって進めて参ります。

近年の異常気象等により、全国各地で自然災害が頻発している中、大規模災害への備えが必要であるとともに、本年１月には、埼玉県八潮市内において、下水道管の破損に起因すると考えられる陥没が起き、周辺住民への日常生活に支障が生じる事態となるなど、老朽化したインフラ整備も喫緊の課題です。「県民の命と暮らしを守る」を第一に、県内全域で防災・減災、国土強靱化対策に重点的に取り組んで参ります。

また、本県においては、世界的半導体企業であるＴＳＭＣ関連のＪＡＳＭの第１工場が昨年12月から操業を開始し、更に第２工場についても年内着工が予定されるなど、更なる企業集積が見込まれます。幹線道路ネットワークについては、九州の横軸として本県のみならず、九州の一体的な発展を図るために不可欠な中九州横断道路の「熊本環状連絡道路」が、４月１日に新規に事業化されるなど、本県の幹線道路整備は着実に進展しており、引き続き、早期整備に向けて取り組んで参ります。加えて、セミコンテクノパーク周辺の道路整備については、県道大津植木線の多車線化や合志インターチェンジアクセス道路などの整備を短期・集中的に進めて参ります。

熊本都市圏の渋滞緩和については、本年３月に知事をトップとする「渋滞解消推進本部会議」で、周辺市町の取り組みなども含めた都市圏全体で今後取り組んでいく渋滞対策の方向性や目標・具体的対策を示しました。車の「流れ」をよくする取組みについて、短期の加速化対策として、県と熊本市で30箇所の交差点改良を進めており、県民の皆様にその効果を実感していただけるよう、迅速に取り組んで参ります。さらに、中長期的な取組みについても、国道や県道の主要な幹線道路の重点的・計画的な整備や熊本都市圏３連絡道路の早期実現に向けた調査の実施など、着実に推進して参ります。

加えて、熊本の活力の前提となる人材の育成・確保については、「地域の守り手」として重要な役割を担う建設産業が、持続可能な産業となるよう、建設産業の人材確保・育成、生産性向上、働き方改革を支援して参ります。

最後になりますが、社会資本整備を進めるためには、技術者の皆様が培われた高度な技術力と経験が必要となります。熊本の創造的復興と、熊本そして九州の更なる発展に向けて全力で取り組んで参りますので、引き続き日本技術士会九州本部の皆様の御支援・御協力をお願いいたします。

## 私の提言

# 未来の人材を育てる

北九州地区支部支援委員会　副委員長　**牟田（むた）　英明（ひであき）**
（建設、総合技術監理・北九州）

お城巡りが好きで、全国を旅している。その土地で少し小さめな宿に泊まることが楽しみだ。昨年暮れ、栃木県佐野市のある旅館に泊まろうとしたが、女将さんから、その日は宴会が入っているため、夕食が提供できないと言われた。事情を聞くと、人が足りなくて配膳ができないのだと。せっかく栃木まで来てその土地の美味しいものが旅館で食べられないとはどういうことなのか。宿泊先をホテルに変えても、「朝食あり、夕食なし」がほとんどだった。仕方なく、その旅館を予約、歩いて10分程のファミリーレストランで、トンカツ定食を食べることになった。

人口減少時代に突入し、労働者不足は深刻になっている。県庁所在地から外れた地方部でこの傾向が強いと全国を旅して感じる。一方、産業界においては、人材の争奪戦が始まっている。「半導体製造業で人材育成を強化する必要がある」と政府や産業界、大学までが口を揃えて言う。しかし、半導体だけではない。先ほど紹介した旅館・ホテル業、2024年問題を抱える運輸業、感染症対策が急がれる病院、高齢者が増え続ける介護施設、新規就職者が少ない小中学校、とりわけ３Kと言われる建設業は絶滅危惧種の状態ではないか。

職人の人材不足も深刻で、その技をどのように継承していくかが課題となっている。北九州地区支部で、このような話題を中心に、2024年12月に「人口減少時代の人材育成」をテーマとして公開シンポジウムを開催した。行政からは、新たな人材の確保が厳しくなっているので、企業内人材のリスキニングや企業間のワークシェアを進めるとの紹介があった。企業からは、職人技をデータ化してデジタル技術で克服していくスマートファクトリー化の取り組みが紹介された。

IT技術を活用して経済活動を根本的に変革していくことは、少ない労働力で同じ品質の製品が製造されていくメリットがあり、人口減少下の労働力不足を凌ぐには取るべき戦略の一助となる。しかし、我々の議論の中からは、「未来の人材をどのように育てていくのか」と言う視点が欠落していたと感じる。

「人材育成」は「人材確保」と解釈され、国や企業、マスコミでも同じように取り上げられている。しかし私は、技術者における育成は「育てる」でありたいと感じる。

かつての「ウォークマン」のような製品を、再び日本から生み出すためには、せっかく確保した人材をどのように育て、伸ばしていくかという視点が重要である。確固とした専門知識と、課題発見・解決能力を併せ持つことで、新たな知を創造し、社会の成長を牽引することのできるイノベーション人材、それをエンジニアリング人材[1)]と呼ぶならば、技術士はまさにそこに深く関わっていくべきではないか。

第51回技術士全国大会（熊本・九州沖縄）が、2025年10月25日から熊本城ホールで開催される。大会テーマは「かたろう 技術のミライ×つなごう 技術のチカラ」。その中で人材を話題とする　第４分科会では、先の問題意識のもと「人口減少社会における人材育成」をテーマにシンポジウム形式で議論する予定である。皆様と「未来の技術者の有り方・育て方」について、議論を深めていきたいと思っている。たくさんの会員の皆様に、ご参加いただくことをお願いしたい。

1）技術士PE2025.4 P8 エンジニアリング・コンピテンシーを基軸に大学と社会を開く　深堀聰子氏

所属：牟田技術士事務所、西日本工業大学非常勤講師
（E-mail：muta-san@jcom.home.ne.jp）

## 声の広場

Ⅰ

# 台湾烏山頭ダム研修

池田（いけだ）　秀司（しゅうじ）
（建設・福岡）

私の所属している特定非営利活動法人西日本建設技術ネット（以下西日本建設技術ネット）は、初の海外研修として今年の２月４日～６日に台湾烏山頭ダムの技術研修を行った。

西日本建設技術ネットは、①建設技術の研鑽と継承②技術を通じた事業活動で社会に貢献する③若手人材の育成の３つを設立趣旨とした設立18年目を迎えるNPO法人である。構成員は建設関係者で公務員、民間業者を退職した（現役の会員も所属しています）技術士を主体とした１級建築士等である。

今回の台湾烏山頭ダム研修は、設立趣旨の①建設技術の研鑽と継承である。このため、報告書を作成した。参加者は５人で、１人は今回で３回目の台湾旅行で台湾に詳しい方が研修旅行の段取りをした。３人で分担して報告書を作成し、残りの１人は報告書の編集およびＨＰへのアップを行った。今回は、「はじめに」の文と私の担当した報告書の一部を抽出した内容を記述する。全文はＨＰを参照されたい。

**１．はじめに**

令和７年２月初旬に、西日本建設技術ネットの技術士５名で台湾研修に出かけた。１日目は空路到着後「ランタン揚げ体験」、２日目は「ダム研修（主目的）」、３日目は「故宮博物館見学」を楽しんだ。ダム研修が主たる目的であり、大いに得るところがあった。当時の社会環境、ダムの設計と施工、及び土木技師八田與について、報告する。

**２．烏山頭ダムの計画と施工**

烏山頭ダムは、清国統治時代には荒野が広がっていたという広大な嘉南（かなん）平野を、台湾 最大の穀倉地帯に変えたダムである。日本統治時代に、台湾総督府の八田與一技師によって立案された。ダムは 当時東洋一の規模であった。

珊瑚湖

・事業名称：「嘉南大圳（かなんたいしゅう）新設事業」の中核工事 烏山頭ダム
・ダム形式：半水力式アースダム・堤防高：66.6m
・堤防延長：1,273m　・総貯水量：１億５千４百万㎥（黒四ダムは２億㎥であり、匹敵する貯水量である）
・湛水面積：1,300ha
・灌漑面積：15万ha（中村哲医師のクナール堰は3000haであり、灌漑面積が極めて広い）
・事業主体：台湾総督府（日本政府）
・工事主体：公共埤圳嘉南大圳組合　・工期：1920年～1930年
・事業費：1,600万円（現在金額にして約160億円）

1920年（大正９年）に着工し、1930年(昭和５年)に完成した。嘉南大圳の重要な水利工事の一つであり、台湾初期のダムの一つである。規模は、当時国内最大であった愛知用水工事の２倍以上で、国益をかけたビッグプロジェクトだった。ダム湖の水は、山一つ隔てた曽文渓から取水し、3.2ｋｍのトンネル導水路を通り導かれている。

**３．会員募集について**

西日本建設技術ネットは、設立趣旨の②「技術を通じた事業活動で社会に貢献する」を具体化するために、工事技術調査（工事監査）業務を行っています。工事監査業務は、地方自治法第199条に定められている行政監査の一部であり、技術士が資格要件と定められています。昨年度は、九州各県と管内自治体から県は２箇所、市は７箇所から受注しました。会員として技術士、１級建築士（工事監査に建築物件があるため、その場合は技術士と１級建築士で工事監査を行います）を募集しています。会員になって工事監査をしませんか。興味のある方は下記メールまで連絡下さい。

所属：特定非営利活動法人
西日本建設技術ネット
（E-mail：saikaioc@r6.ucom.ne.jp）

Ⅱ

# 「ド。」－土木の未来について－

福田（ふくた）　慶剛（けいごう）
（建設、上下水道・佐賀）

タイトルはＴＶアニメ「チ。－地球の運動について－」を做ってつけてみた。

このアニメ物語は、中世を舞台にし、地動説（地球が動くという概念）を信じる学者やその思想を受け継ぐ人々の闘いが中心となっている。主人公たちは地動説を証明し、広めようとする中で迫害や弾圧に直面するが、それでも真理を追求する姿が描かれている。観る者に知識の力と人間の意志の強さを考えさせる内容になっている。

このアニメを踏まえた中で、土木の未来と個人的な考えについて、以下に述べる。

**１．建設から維持への転換**

私が建設コンサルタント業に従事したのが2001年である。この頃は氷河期世代の私にとって就職が厳しく、昇給や賞与もない（現在所属している会社ではない）耐える時代だった。

設計のソフトもCADに移行しているものの、過年度の図面はマイラーやドラガーが残っており、手書きで修正作業も行った。そんな中でも、新規の設計を行う楽しさはあった。

しかし、2000年を越えたあたりから建設から維持管理へシフトした。時代の転換期である。

**２．基準書、マニュアル、経済性志向の蔓延**

20代から30代前半にかけて感じたのは、計画機関（発注者）や一部の技術者では基準書、マニュアル、経済性志向が強いということだった。

会計検査対応のために必要ということで要望されることが多かった。そのころから私自身、仕事の在り方に疑問に感じはじめた。

アニメの中で言えば、天動説の正しさに疑問を持つというシーンになる。

**３．技術士の取得後**

34歳で技術士を取得した。取得に際して勉強したことは「知識」以上に「考え方」だ。

「公衆の安全、健康及び福利を最優先する。」これこそが優先する必要がある事項であり、正しい考えと思った。

しかし、思いとは裏腹に業務の成果は理想から離れるというジレンマに襲われる。

あるべき姿と現状とのギャップ（問題）が顕在化し、このままではダメなんじゃないかと思った。

**４．基準は不変ではない**

担当として実務を行うと基準に対して疑問に思うことが多い。

例を挙げれば堰堤袖部の根入れである。基準では透過型の袖部の根入れは不透過型堰堤に準ずるとなっている。しかし、透過型は不透過型と異なり土石流時に開口部が閉塞しても水は流れることから浸潤線は不透過型に比べ低い。

もう一つ例を挙げれば、矢板の土留めだ。日本全国の土質は画一的ではなくそれぞれの土地の特徴を持つ。佐賀県佐賀市の低平地ではN値０、鋭敏比の高い粘性土が厚く堆積する。しかし、掘削深H=2mの場合、発注担当者によっては仮設工指針に準じて自立型にするよう指示する。安全性の観点から、理由を説明しても２の次に出る言葉は「会計検査が」である。

**５．土木の未来について**

天文学の地動説の研究は、宇宙の理解における重要な転換点であった。天動説絶対ではなくなった。その時代の常識が後世で間違いに気づくことはよくある（サービス残業とか）。

基準についても災害を機に改訂をされているものの、絶対的な考えを変えなかったりしている。要は枝葉の改訂を行っていることが多いということ。

斜面における解析は二次元安定解析（修正フェレニウス法等）が絶対的である。しかし、斜面を無限長で解く二次元解析と崩壊範囲は説明がつかない。加えて逆算法という現場再現性の低い手法により行われていることも変わらない。

本来は現場調査とともに三次元解析として解き、再現性の確認→斜面に対する予防保全の推進を行ってこそ、「公衆の安全、健康及び福利を最優先する。」設計ではないかと考える。

災害大国の日本を再び世界の技術大国として復活するためにも、技術者として探求をつづける必要がある。この世界は好都合に未完成であり絶対という言葉はない。

**６．おわりに**

アニメのシーンの一部を借りて、土木の仲間へ伝えたい。「ぼくらは歴史の登場人物じゃない。けれど、同じ時代を作った仲間だ」（一部セリフ内容改変）。

所属：株式会社九州構造設計
（E-mail：k-fukuta@kyukoh.co.jp）

## 熟練技術士の声

# 夢と希望ある地方建設業へ

佐藤（さとう）　孝之（たかゆき）
（建設、総合技術監理・佐賀）

**１．私の経歴**

私は、昭和62年に大学を卒業し、東京本社のゼネコンに入社し10年間勤めました。平成８年に地元福岡の建設コンサルタントに転職し60歳の定年まで勤め、現在は佐賀本社の建設コンサルタントである朝日テクノ株式会社で勤務しています。

ゼネコン時代は、バブル景気が始まったばかりの時期で多くの工事を経験し、この時のトンネル工事の経験で、技術士を取得することができました。福岡のコンサル時代は、熊本地震や多くの豪雨災害の災害復旧業務を担当しました。佐賀では、熟練技術者として若手技術者の教育を担っています。初めての単身赴任で、学生以来の自炊をし、仕事帰りに温泉に行くことを楽しんでいます。

**２．地方建設業の役割と問題点**

私が当社に入社した２か月後に九州北部豪雨災害が発生しました。唐津市から佐賀市の山間部で最大時間雨量が92ミリを観測し、多くの土砂災害が発生いたしました。災害は、河川、道路、農地、急傾斜地など多岐にわたり、その数も膨大でした。

当社は地元のコンサルとして災害復旧の測量・調査・設計を担うことになりました。私が驚いたことは、受け持つ数が多いこと、設計期間が短いことに対して、若い社員が怖気づくこともなく冷静に対応していたことです。地域への愛情を感じました。

地方の建設業は、災害時の緊急活動を通して地域の安全や生活を守る役割以外にも、地域のインフラを整備し地域経済を支える役割、インフラの維持管理により社会を支える役割などを担います。つまり、地方に住む人たちが安全・安心な生活を確保し、持続可能な社会を構築するために、地方の建設業は不可欠です。しかし、建設業の現状は３K（きつい・汚い・危険）のイメージが強く、人気がないことから、新卒での就職希望者が極めて少ないのが実情です。

**３．国の施策による地方建設業の環境改善**

国は、このような現状を打開するために、工期の適正化による働き方改革の推進、適正な賃金水準の確保に向けた賃金引上げ等の取り組みを始めました。この結果、建設業の賃金は平成24年時と比較して約20%上昇し、現在は全産業の総賃金を超える結果となりました。また、完全週休２日は２割程度と少ないものの、出勤日数はこの10年減少しています。

このため、従来の建設業の給料が安い、休暇が取れない等のイメージは、大きく解消されたと思われます。また、インフラの新設、保守・点検、災害対応等の仕事は、確実にあるため、地方では安定した産業であり、プライベートや子育てなどの将来計画が立てやすく、夢や希望が持てると思われます。つまり、今時の言葉では、「コスパがいい」といえます。

**４．地球環境問題解決のための建設業の役割**

近年の気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化等から、河川の整備は流域治水を行う方向性が決まりました。流域治水は、全国の河川に対してあらゆる関係者による総合的、多層的な対策を行うものであり、流域に関わる関係者が協働して水災害対策を行うものです。つまり、国・県・市、企業、住民の協働が不可欠で、調整・まとめ役のコーディネーターが必要と考えられます。その土地で活動している建設コンサルタントの役割は大きいと考えます。

また、令和４年12月新たな生物多様性に関する世界目標である「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択されました。この結果、ネイチャーポジティブの観点から「生物多様性」の保全・回復が求められます。建設部門では、生物多様性を損なわない設計が求められ、さらに、自然環境を工事前よりプラスにする取り組みが義務付けられます。

**５．当社の環境活動の取り組みと私の役割**

当社は、環境問題に関心を持ち、有明海岸のもりづくり、神野公園のトンボ池保全活動など、多くの環境ボランティア活動を行っています。また、「いまり・こまなきの里山」を体験の機会の場として運営し、昨年度、環境省から評価され自然共生サイトに認定されました。さらに、ビオトープ塾を開催し、ビオトープ管理士の育成にも力を入れています。

このような取り組みによって得られた当社の技術・知識は、流域治水や建設工事に係わる自然環境の保全・回復に役立ち、地域に対して重要な役割を担うことができると感じています。私は地方建設業が、このような変化に対応できるよう、社員の技術力の向上を図るため勉強会や実務で指導し、夢や希望を持てる手助けを担っていきたいと考えています。

所属：朝日テクノ株式会社
（E-mail：sato@asahi-tc.jp）

## 修習技術者の声

### 技術士への挑戦

竹田（たけだ）　優子（ゆうこ）
（建設（修習）・大分）

私は建設コンサルタント会社に勤務し、現在は土木技術者として土木構造物の設計に携わっています。

土木の道へ進むきっかけになったのが、父親の仕事をする姿を見て育ったことです。私の父は、建設会社で施工管理業務に従事しており、幼いころに父の働く現場へ連れて行ってもらい見学する機会がありました。父の仕事をする姿を見て、「私もこんなカッコいい人になりたい」と思った記憶が残っています。後に、学生時代に進路に悩んでいた私に、「土木を仕事にしてみないか。手に職をつけると将来困ることがないから」と父から後押しされ土木技術者の道に進みました。

技術士一次試験を受験したのは就職してからで、当時は仕事と勉強の両立が難しく、勉強時間を確保することに苦労しましたが、数回受験して合格することができました。二次試験は、「一次試験に合格するのも大変だったのに二次試験を受けることが夢のまた夢」と思い受験する意思がありませんでした。それに小論文を書くことが苦手であり、自分には到底無理と諦めていました。現在の会社に転職した時にRCCMの実務経歴を満足していたので、技術士二次試験の予行練習になると思いRCCMを受験しました。文章を一から作ることに苦労しましたが、２部門取得することができました。

RCCMを取得してから「技術士二次試験に挑戦してみよう。」と思い始めました。また、同時期に上司や周囲からも技術士二次試験の挑戦を薦められました。

今年初めての受験になりますが、試験準備のため昨年よりNPO法人智楽フォーラム主催の勉強会に参加しています。月に１回開催され、月ごとにテーマ(インフラメンテナンス等)を設定して骨子と小論文の作成を行い、それぞれの作成に使用した資料(国土交通白書など)を用いて意見交換を行っています。勉強会の準備は不慣れで大変ですが、技術士になるための自分自身の修行と思い、日々の時間の過ごし方を変えて取り組んでいます。

安西先生の「諦めたらそこで試合終了です」が私の好きな言葉です。諦めずにいつか合格できると確信して精進していきます。

所属：株式会社アストソイル
（E-mail：y-takeda@astsoil.co.jp）

---

### 地域の安全に貢献できる技術者へ

齋藤（さいとう）　侃太（かんた）
（建設（修習）・宮崎）

地元の建設コンサルタントに入社し、早２年が経過しました。この間、多様な業務に携わる中で、技術者としての責任とやりがいを肌で感じています。

特に昨年は、自然の猛威を改めて認識させられた災害復旧業務と、土砂災害対策に関する新規事業対象箇所抽出業務に主として従事し、多くの挑戦と学びに満ちた１年となりました。

災害復旧業務では、被災箇所の早期復旧という課題に対し、多くの助力をいただきながらも無事に成果物を納品できたことに安堵を覚えるとともに、自然災害の恐ろしさと、インフラ整備の重要性を改めて認識しました。突発的な自然災害に対して迅速かつ的確な対応が求められる中、現地調査から設計、住民の方々との調整など、一連の業務を通して、机上だけでは得られない貴重な経験を積むことができました。

土砂災害対策に関する新規事業対象箇所抽出業務では、GIS（地理情報システム）ソフトを活用することで、数千箇所を超える土砂災害警戒区域の中から条件に合致する箇所を効率的に絞り込むことができました。新規事業かつ社内で使用例のないソフトを活用したため、正解が見えない不安の中、手探りでソフトの仕様を学びながら業務に取り組むのは苦労しました。しかし、それを乗り越えたことで、主体的に考え、検証、実行する力が以前より養われたと実感しています。

これまでの業務経験を通して痛感するのは、近年の日本が抱える担い手不足をはじめとした社会資本整備に関する課題は多岐にわたり、その解決には既存の枠にとらわれない柔軟な発想と、新しい技術への積極的な挑戦が不可欠であるということです。現在私は、より一層地域社会に貢献できる技術者となるべく、GISソフトを駆使した分析能力の向上、３次元点群データの処理技術習得など、日々の技術研鑽に励んでいます。今後も、現場での経験を大切にしつつ、最新の技術動向を常に把握し、積極的に業務に取り入れていくことで、地域社会の安心・安全な暮らしを支える一翼を担っていきたいと考えています。

所属：株式会社晃和コンサルタント
（E-mail：k-saitou@kouwa-cnsl.co.jp）

## 私のチャレンジ

# 技術士の散歩道：たたらと日本刀の謎にせまる旅

瀬々（ぜぜ）　昌文（まさふみ）
（金属、博士（工学）・北九州）

**１．はじめに**

たたら製鉄と日本刀に興味をもってから20年以上になり、関われば関わるほど謎は深くなっていく。そんな時、日鉄時代の同期の金属部会・田中部会長から「出雲たたら巡り研修」の案内を頂き、参加することにした。研修は２日間に亘って実施され、第一日目は奥出雲のたたら遺跡を巡る見学会（バスツアー）で、第二日目は和鋼博物館での講演会であった。参加者は総勢27名で、本部18名、中部本部３名、中国本部３名、東北本部１名、九州本部１名、非会員１名であった。以下、研修の内容を中心に感じたことを述べたいと思う。

**２．第一日目：奥出雲のたたら遺跡の見学会**

５月17日11時30分にJR福山駅に集合し、貸切バスに乗りツアーがスタート、中国山地を北上して約２時間で奥出雲吉田町の「①鉄の歴史博物館」に到着。たたら製鉄の歴史や職人が使っていた道具が展示され基礎知識を叩き込むにはよい。その後５分ほどで「②菅谷たたら山内」へ、ここは出雲の鉄師御三家の筆頭田部家のたたら場である。大正10年まで操業が続けられ、全国で唯一現存する高殿様式として、国の重要有形民俗文化財に指定されている。高殿とは炉を覆う建屋のことで、ほぼ炉部分の補修のみの固定操業（永代たたら）が行われた。高殿内はコンパクトな製鉄工場のようで、土間は熱い鉄隗を搬出しやすいように出口に向かって傾斜がついている。送風装置としては天秤踏鞴のイメージが強いが近代に水車式鞴に替わったようである。ちなみにここは映画「もののけ姫」のモデルとなった場所でもある。他の御三家はTVドラマ「VIVANT」のロケ地となった櫻井家と映画「絶唱」のロケ地となった絲原家で、いずれも観光スポットとなっている。

**写真　菅谷たたらと金屋子神社**

次の訪問地は「③奥出雲たたらと刀剣館」でたたら設備の模型の他に製品となった日本刀が展示されている。たたら炉の地下部分が断面模型で展示されており、断熱・防湿構造になっていることがわかる。また、刀剣の製造過程もわかりやすく説明されている。刀剣は備前刀の刃文のようなきらびやかさはないが剛健な感じがする。事前に申し込めば、日本刀の鍛錬やマイ包丁造りも体験できるようである。最後の訪問地は、「④金屋子神社」で全国1200社以上の金屋子神社の総本宮である。金屋子神はいわゆる鉄の神様で、一旦播磨に降臨した後、白鷺に乗ってこの地にやって来たということである。参道には製品になり切れなかった粗雑なたたら鉄が並べられていた。

**３．第二日目：たたらと日本刀の講演会**

和鋼博物館を訪問、講演開始まで館内を見学した。ここでもたたら場の模型等が展示されている他、和鋼と命名した俵國一東大名誉教授の記念室に先生の研究の足跡や使用されたカールツァイス光学顕微鏡などが展示されている。

**１）第１講：古代～近世の製鉄技術「たたら製鉄」**

和鋼博物館館・長谷川正人館長による古代から近世の鉄生産について、原料や燃料など資源・環境を含め今日まで継続してきた内容の紹介があった。製鉄技術の情報交換について、金屋子神社の春秋の大祭で全国から鉄師が集まりコミュニティーが形成され相互発展していったのではないかという話は興味深かった。学会などない時代に同業者と情報交換できる機会は少なく、金屋子神社は貴重な存在だったのかもしれない。また、白鷺がどこから飛んできたのかということで、しらさぎ≒しらぎ、新羅ではないかというロマン溢れる話もあった。

**２）第２講：日本刀とマルテンサイト**

島根大学材料エネルギー学部・森戸茂一教授による金属組織学から見た日本刀について、最近の研究を含めて紹介があった。SEM/EBSDによる組織解析で刃先部にはマルテンサイトだけでなく微細パーライトが観察されることが紹介された。微細介在物の影響が予想される。国宝級の刀は切断して調査するわけにもいかない難しさはあるが、非破壊検査などの新しい手法で解析が進むのを期待したい。

百聞は一見に如かず、やっぱり現地で見て話しを聞くと理解が深まった気がする。最後に見学会・講演会を企画された金属部会の方々に感謝したい。

所属：ZEZE技術士事務所
（E-mail：zeze@jcom.home.ne.jp）

## 土木遺産シリーズ（40）

# 世界遺産「三菱長崎造船所第三船渠」

安武（やすたけ）　昭典（あきのり）
（化学・長崎）

「三菱長崎造船所第三船渠」が所在するのは、グラバー邸や大浦天主堂の丁度対面にある長崎港西岸の三菱重工業㈱長崎造船所敷地内である。

**１．第三船渠の歴史**

長崎造船所では1879年（明治12年）に立神に第一船渠が作られ、1896年（明治29年）に第二船渠、1905年（明治38年）の３月に第三船渠と次々に竣工された。数多くの船舶の修理、製造が行われてきたが、1963年（昭和38年）に第一船渠、1972年（昭和47年）には第二船渠が閉渠となり、100年以上経った現在、当時の姿を留め現役として稼働しているのは第三船渠のみとなった。

**筆者撮影**

**２．世界遺産への認定**

2015年７月、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の名称で８県11市に点在する合計23の構成遺産がユネスコ世界文化遺産に登録され、この三菱長崎造船所第三船渠もその一つである。世界遺産マニアのサイトより引用すると、三菱長崎造船所・第三船渠が評価されたのが、ユネスコの登録基準10点の内、以下の２点に該当する。

登録基準（ii）：建築、科学技術、記念碑、都市計画、景観設計の発展に重要な影響を与えた、ある期間にわたる価値観の交流又はある文化圏内での価値観の交流を示すものである。

明治日本の産業革命遺産は、江戸時代から続く封建社会であった日本が19世紀後半から西欧の技術によって20世紀初頭まで短期間で世界有数の工業国となり、そのノウハウや技術など、東アジアの工業化において影響を与えたという証拠である点。

登録基準（iv）：歴史上の重要な段階を物語る建築物、その集合体、科学技術の集合体、あるいは景観を代表する顕著な見本である。

日本各地に残る鉄鋼、造船、石炭の産業拠点は、世界の歴史において、西欧諸国以外で初めて近代化に成功し、西欧技術の採用により、地元の技術革新と合わせて日本独自の工業化を反映した産業遺産であったということ。

三菱長崎造船所の第三船渠は、明治から稼働し続ける大型ドックでアジアでも最大規模であったことから、東アジアにおける工業化に貢献したという点で評価されている。

**３．第三船渠の建設と利用状況**

この第三船渠は大型船の建造・修理のために、三菱合資会社時代に建設され、入り江の地形を生かしたドックであった。壁の全体は石積みで作られている。完成当時では、東洋最大の乾船渠（かんせんきょ）であった。乾船渠とは、船を造ったり、修理をするための施設や設備のことである。オランダ語に由来していて、ドック・ドライドックなどとも呼ばれている。ドックの構造は、満潮時に船をドックの中に引き込み、船が入ったら、扉を閉めて排水する。開渠時に設置された電動機で駆動される英国シーメンス社製の排水ポンプは建設当時のまま100年後の今も稼働し、ドライドックの機能を維持している。

第三船渠は船の大型化に伴い背後の崖を切り崩し、前面の海を埋立て1943年、1957年、1960年と三度も拡大したが、底や壁面の石垣は当時のままで三菱合資会社の当時の姿をとどめる貴重な資産だ。

完成当時は、長さ222.2m、幅27m、深さ12.3mだったが船舶の大型化に対応するため、その後３回の拡張工事が行われた。現在は、長さ276.6m、幅38.8m、深さは建設当時そのままである。

現在も自衛隊の艦艇などを整備しているので、一般非公開となっている。

**筆者撮影**

**参考資料**

・長崎市公式観光サイト
https://www.at-nagasaki.jp/spot/62107
・文化庁　文化遺産オンライン
https://www.unesco.or.jp/activities/isan/decides/
・世界遺産マニア
https://worldheritage-mania.com/

所属：安武技術士総合事務所
（E-mail：a.yasutake.pe@yasutake-pe.com）

## ミニ特集　『趣味・特技、社会貢献、心に残る言葉・出会いなど』

### 経験が導く自然体の働き方

高松（たかまつ）　一馬（かずま）
（建設・福岡）

私は子供の頃から人の話を聞くのが好きで、先人の言葉に救われることがよくあります。物事の捉え方を学びたいと考えていた折、ある著名人の講演を動画サイトで視聴していると、「荘子」というキーワードが耳に入りました。調べてみると、古代中国思想のひとつであり、生き方や心のあり方に関する教えが多く含まれていると知り、現代語訳の書籍を手に取りました。なかでも心に残ったのが、「庖丁解牛（ほうていかいぎゅう）」という寓話です。

ある料理人が王の前で牛を解体します。刀を振るうたびに音楽のような心地よい音が響き、「見事な技だ」と王は感嘆します。ところが料理人は、「私の好むのは“道”であって、単なる技ではありません」と語ります。経験を積んだ今では視覚に頼らず、牛の筋に沿って自然に刀を入れることができるため、19年間使い続けている刀も刃こぼれひとつないというのです。これを聞いた王は、「料理人の話から、生命を長く養う“道”を学んだ」と感心します。

私はこの寓話を読んで、「人生100年時代」の生き方に通じるものがあると感じました。社会人になった当初は、日々の仕事に追われるなかで心身ともに消耗し、長く働き続ける自信を失いかけたこともありました。しかし、料理人のように経験を重ね、自然体で力まず仕事に向き合えるようになれば、むしろ心身の負担を抑えつつ、技術者人生を長く歩めるのではないかと考えるようになりました。

この寓話に出会ってからは、仕事の中で自分が消耗しかけている兆しに気づくようになりました。そんなときは一度立ち止まり、やり方に無理がないか、より工夫できることがないか等、自分の行動を見直すようにしています。近年、働き方改革を踏まえて、DXの導入など、効率化の手段については活発な取り組みがなされていると思います。これに加え、先人の思想に学び、心の持ちようを問い直すことも、「持続可能な働き方」に必要ではないかと感じています。

資質向上の責務を果たすことは、公益の確保だけでなく、自らの長い技術者人生をより豊かにしてくれる。そのことを、私はこの寓話を通じて改めて実感しました。

所属：株式会社オリエンタルコンサルタンツ
（E-mail：takamatsu-kz@oriconsul.com）

---

### 野菜作り

伊藤（いとう）　陽（きよし）
（建設、水産・北九州）

十数年前、アパートから戸建てに引っ越したのを機に庭のはずれを少し耕して家庭菜園を始めた。

最初のころは、何の知識もなく、ホームセンターで買ってきた野菜の苗を植えるだけであり、失敗の連続であった。キュウリを植えたときは、ある日葉っぱに小さな茶色い虫が止まっていて、触ろうとするとポロリと転げ落ちて、アッという間にどこかへ飛んで行ってしまった。その後、キュウリの葉が少し枯れているのに気づいて調べたところ、あの茶色い虫はウリハムシという昆虫で、キュウリなどウリ類の害虫であることがわった。また、キャベツを植えた時は、ある日わが畑にモンシロチョウが乱舞しており、気づいたときにはアオムシが大量発生し、キャベツは葉脈を残して哀れな状態になっていた。テレビなどで、現代の農業は農薬なくしては成り立たないとか、無農薬栽培の困難さなどの報道を見るが、こういうことなのかと項垂れたものである。

あれから十年ほど経ち、今は考え方を少し変えて、大根やニンジン、ジャガイモなど地中で成長し、葉っぱを多少かじられても平気なものを栽培している。また、小松菜やチンゲン菜などの葉物野菜は虫の活動がおとなしくなる秋ごろに種を蒔き、冬場に収穫している。収穫まで時間はかかるが、寒い冬を乗り越えるために糖分を蓄えたうまい野菜ができる。また、竹酢液など自然農薬で、何とかやりくりしている。虫との共存というほど私の心は広くないが、なんとか折り合いを付けているといったところか。

しかし、今年の冬はこれまでになかった事件が起こった。白菜やブロッコリーが順調に成長していた畑にヒヨドリの大群が押し寄せてきたのである。慌てて、防鳥ネットを注文したが時すでに遅し。ネットが届いたころには見るも無残な状態となっていた。テレビのニュースによると、九州各地の農家などでも同様の被害が発生している様子で、一部では気候変動の影響との見方も出ているらしい。私の小さな楽しみにまで気候変動の影が迫っていたとは・・・。

所属：株式会社三洋コンサルタント
（E-mail：ito-kiyoshi@sanyo-cnsl.co.jp）

# 今はDIY＆家庭菜園

浦瀬（うらせ）　俊郎（としろう）
（建設・長崎）

私の趣味は、その時々の生活環境で変化し、釣り、油絵、テニス、スキー、ゴルフなど多彩だが、全て自己流である。最近では、６年前に実家を建直したことをきっかけに小学校時代の趣味だったＤＩＹと家庭菜園を再開した。

最初に、ＤＩＹでは、ウッドデッキ、鳥かごの台、移動式棚などを作った。作成時の留意点・工夫点は、完成後のイメージを妻と共有し、安価に仕上げることである。ホームセンターを数店巡り木材を選定し設計図を作成する。その際、廃材を極力少なくできるように部材の割付とカットの順番を工夫する。現在では、ホームセンターで１回30円でカットを依頼でき、必要な部材も寸法通り簡単に揃うので、とても便利である。後は、ペンキを塗り、電動ドライバでねじ釘を打ち組み立てれば完成する。

次に、家庭菜園は庭に１畳ほどの畑を２つ造り、野菜類と妻の好きなハーブ＆オリーブを栽培している。私の昼食は、15年前から体重維持のため冬期以外はサラダ弁当を作り食べている。そのため、具材の足しになる野菜としてトマト、ラデッシュ、きゅうり、水菜、ビーツなどを栽培しているが、昨年は、猛暑で水撒きも大変で、イタリアンパセリと大葉が繁茂し畑を占領してしまった。この他、３年前にフィンガーライムの小さな苗を３本購入し、現在は１ｍ程に育ったが、蝶々が大量に卵を産み幼虫が葉を食い荒らすため、対策として防虫と防寒を兼ねた簡易ハウスを造り、昨年はようやく少しだけ実を付けた。

この他に、定年後はカヌー、トレッキング及び取得分野以外の技術士資格取得にも挑戦中であるが、今年度はフィンガーライム＆オリーブの大量収穫と新たな資格取得を目指し頑張りたい。

**写真　ウッドデッキ、簡易ハウス＆フィンガーライム**

所属：東亜建設技術株式会社
（E-mail：t.urase@toa-ct.co.jp）

---

# 音楽と私

植木（うえき）　和宏（かずひろ）
（建設、総合技術監理・大分）

趣味は色々あるが、まず挙げられるのは音楽である。60年強の人生の常に傍らにあった。幼少の頃は、親の知人が開いていたバイオリン教室に通っていた。その後、中学からは、繊細な弦楽器の音色より、力強い管楽器の音色に憧れ、吹奏楽部に入った。体が大きいのでコントラバスとかチューバを充てられた。初めて皆で演奏してハーモニーが生じたときの感動は今でも思い出すことができる。大学以降は再び弦楽器に返り咲いて、社会人になってからもオーケストラでバイオリンやビオラを弾いていた。年を取って繊細な音色が恋しくなったせいもあるが、社宅やマンション暮らしとなり、大きな音が出しづらい環境なったこともある。このように、長らく音楽と付き合ってきたせいか、行動を起こすときはつねに頭の中に音楽が聞こえているような気がする。なお、不器用なせいか10本の指を使うピアノやオルガンは殆ど弾けないが、管弦楽器は色々触っている。

また、演奏するだけでなく聞く方も、東京在勤時にサントリーホールで聞いた、マーラーの「巨人」は、ホルン立奏のビジュアルも含め未だ記憶に残る。残念ながら、大分転勤とともに頻度は大幅に減少したが、CDは、数えたことはないが200枚は下らない。ジャンルも多岐で、定番のドイツクラシックからフランス・イタリアの音楽、ソビエト時代も含めたロシア音楽、中世・バロックの音楽、はてはアメリカ音楽から前衛音楽まで年の功で幅広い。学生の頃購入したものは、驚くべきことに劣化により鑑賞不能となっていることは残念であるが、聞きながらスコアも見たりするので、入手可能なポケットスコアも多数あるが、マンション暮らしであり置き場を考え最近は購入を自粛している。

音楽に関して書き始めるときりがない。たちまち文字数が尽きてしまったが、まだ尽きていない小職の人生、音楽は常に傍にある。今は週末に楽器を触りつつ、スマホに録音したCDコレクションを転職後の長距離通勤の伴侶としている。

所属：株式会社レックス九州
（E-mail：k.ueki@re-cs.co.jp）

## ミニ特集　『趣味・特技、社会貢献、心に残る言葉・出会いなど』

# 二人生活と地域コミュニティ

勇（いさみ）　秀忠（ひでただ）
（建設・熊本）

技術士だより・九州第142号・143号本欄に自費出版、玉名工業高等学校、熊本工業高等学校における出前講座やメンテナンス授業に触れ、そして母との生活の思いを執筆させていただいた。

この原稿は実家に帰り、約ひと月半での執筆である。「しっかり寄り添っていきたい」旨を前号で書いているが正直、これほどストレスがたまるとは想像していなかった。あまり書くと愚痴になるのでここで少し話題を変えたい。

これまでの地域における自治会、社会福祉協議会、自主防災組織を統合した地域自治協議会が新たに発足していた。ひと月ほど経った時、現区長さんから地域活動に対する２件のお願いことが早速あった。①資源ごみ収箇所の清掃（持ち回り制）、②分別ごみの収集日の立ち合い及び援助である。

まだ一月ほどなのでと遠慮したいと思ったが地域活動への参加は勤めと考え承諾した。

総会開催案内が届き議案事項を拝見して驚いた。それは月ごとの事業内容で、一年を通して毎月５件ほどの活動や委員会など役員の皆さんのご苦労が紙面から伝わった。そこで、少しコミュニティを考えた。親と子も家族コミュニティであり、そこには連帯感があり個々の家族の未来へ継続するような付き合いをお互いに享受している。

地域は組織とは違った外側の公衆に違いないし、特有の風土が存在し、人々が集合的に醸成するもので、人が互いに影響しあう環境にある。しかし、コミュニティの風土が悪化すれば地域の人々のモラルは退廃するだろう。やはり、そこには信頼関係が重要であり、コミュニティの規範は倫理に通じ、それぞれの人間関係を生育させて自律的な順守へ向かわせるに違いない。家族コミュニティから地域コミュニティそして、地域で生産する企業コミュニティなどコミュニティが融合してこそ地域の規範が生じることから「村八分」的な回避に帰結することになるだろう。地域コミュニティへの参画が私の勤めでもあり、できる範囲で取り組んで行く。

所属：株式会社ウラタ・シビル・コンサルタント
（E-mail：h-isami@urata-cc.jp）

---

# 未来を今見る万博

高畦（たかあぜ）　博（ひろし）
（建設、総合技術監理・鹿児島）

４月下旬に「大阪・関西EXPO2025」を見学する機会があった。その時感じたことや55年前の体験を振り返って綴ってみたい。

EXPO2025見学当日、はやる気持ちを押さえつつ早めにゲートに到着したが手荷物検査などで入場まで30分ほどかかった。話題のパビリオン見学に向けて事前予約したがことごとくはずれてしまった。それでも30分程列に並べば入館できた話題のパビリオンもいくつかあった。

iPS心臓、藻類由来の燃料製造設備、Co2固定設備、人工光合成による燃料製造設備などの国内パビリオン、嗅覚・触覚で国を表現した海外パビリオンなど、知的好奇心をくすぐる展示にわくわくさせられた。１周2.0Kmの大屋根リングにあがると、浜風が心地よく、そこから会場の内外を臨む絶景が強く印象に残っている。短い滞在時間であったが、様々な展示を見学、体験することができた。

55年前の万博では、ワイヤレステレホン、人間洗濯機、全天周映画、動く歩道などの展示を体験した。未来が目の前まできているという高揚感が強く残っている。広い会場に点在するパビリオンの間を縫うように駆け巡ったことが記憶に残っている。国内企業館、米国館やソ連館に３、４時間並んだ経験も懐かしい思い出の１ページである。

今回の万博では、開幕前から前売券の不振や、税金投入などマイナスなイメージが報道されてきた。55年前に少年の気持ちで体験した者としては、未来を語る報道がもう少しあってもいいのではと思う。大人よりも子供たちに見て聞いて体験して欲しいと思っている。マスメディアの情報だけで判断するだけでなく、体験して是々非々を述べてみてはどうだろうかと思うところである。

50年後に再び日本で万博が開催されるかわからないが、その頃今の技術はあたり前になっているのだと思う。しかし50年後の私は確かめようがない。それだけに機会あればもう一度未来の光景を目に焼き付けておきたいと思っている。

所属：大福コンサルタント株式会社
（E-mail：hiroshi.takaaze@nifty.ne.jp）

# 中央・統括本部情勢

理事会

## 理事会報告

副会長・理事　**田沼（たぬま）　和夫（かずお）**
（フェロー、建設、総合技術監理、CPD認定・福岡）

2025年６月16日（月）に東京で定時総会が開催される予定です。2025年５月９日（金）に第１回理事会が開催されました。審議事項10件、報告事項９件でした。

主な審議事項に「公益社団法人日本技術士会　定款の変更」がありました。理事会で正式に決議されました。この技術士だより・九州が皆様のお手元に届く頃には、結果がでています。定款の変更には、総正会員の半数以上が出席し、総正会員の議決権の３分の２以上の賛成が必要です。定款の変更が成立していることを願います。その後、総会で外部理事、外部監事を選任することになります。臨時総会を開催するかは、未定です。これを機会に、技術士会のガバナンスが更に強化されることを願っています。

第１回理事会では、2025年度名誉会員、フェロー会員、会長表彰者も決議されました。

私の理事（副会長）としての任期は６月の総会までです。前半の２年間は、コロナ禍でした。副会長ということもあり、四役会議（年６回）理事会（年６回）部会長会議（年４回）地域本部長会議（年４回）等にすべて対面で出席しました。後半の２年間も同様に、対面ですべて出席いたしました。後半の２年間は徐々に会議後の意見交換会も有志で開催されました。時間の許す限り、参加しました。公式な会議とは違った交流ができました。

西日本大会（近畿）、産学官セミナー（中国、四国）では、会長代理で挨拶をさせていただきました。貴重な経験でした。７つの常設委員長、３つの個別委員会の委員長、専門部会の部会長、九州以外の地域本部長さんとも対面で交流できました。これらの交流経験を今後の九州本部での活動に生かしていきます。

九州本部役員、会員の皆様には大変お世話になりました。皆様のご支援に感謝申し上げます。

次の理事には、選挙で西井康浩氏が選任されています。私同様に、ご支援をお願い申し上げます。

所属：産業開発コンサルタント株式会社
（E-mail：tanuma2@bronze.ocn.ne.jp）

---

理事会

## 理事就任のご挨拶

総務委員　**西井（にしい）　康浩（やすひろ）**
（フェロー、建設、CPD認定、博士（工学）・北九州）

このたびの公益社団法人日本技術士会役員選挙におきましては、過分なるご支持を賜り、理事に選任される栄に浴しました。衷心より御礼申し上げます。技術士として、また理事としての責務の重大さを今一度厳粛に受け止め、身の引き締まる思いです。

また、前任の田沼様におかれましては、理事並びに副会長として、公益社団法人日本技術士会の中枢において組織改革に尽力され、技術士の社会的地位の向上に多大なる貢献をなされました。そのご功績に深甚なる敬意を表する次第です。

これに対し私に与えられました１期２年間におきましては、九州本部に軸足を置きつつ、理事会の諸情報を円滑に地域本部へと伝達するとともに、地域本部の声を的確に理事会へ上申する、いわば両者をつなぐコーディネーターとしての役割を果たしてまいりたいと存じます。また県支部への支援にも力を注ぎ、地域活動の充実に貢献する所存でございます。

今後とも何卒変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

ここに、改めて公約に掲げました３項目を紹介し、所信表明とさせていただきます。

① 技術士制度改革を見据えたCPD支援では、技術士としての資質向上に取り組むことが求められています。そのため、地域本部でのCPD活動が円滑に進むよう、私も協力させていただきます。

② 地域内交流の活性化支援では、統括本部・地域本部・県支部の間でスムーズな情報共有と意見のとりまとめを推進したいと考えています。その上で会員の皆さまの意向が反映された活動の場をつくることを目指し、理事会で話し合われた内容の中で、必要で公開可能な情報は、地域会員の皆さまにしっかりとご報告してまいります。

③ 産学官等との連携強化の支援では、社会の動向や国の政策に即しながら、企業・大学・行政・士業などが相互に協力できる体制の構築を目指し、協働の推進を通じて会員の皆様の活動を力強く後押しします。地域における教育機関や学協会との連携では、総務委員時代の経験を活かして有益な情報を皆様に提供できるよう努めてまいる所存です。

所属：西井技術士事務所
（E-mail：nishii-yasuhiro@seagreen.ocn.ne.jp）

# 中央・統括本部情勢

## 地域本部長会議

### 2024年度第４回 地域本部長会議報告

九州本部長　佐竹（さたけ）　芳郎（よしろう）
（建設、総合技術監理・福岡）

2025年３月21日（金）機械振興会館（東京）で開催した2024年度第４回地域本部長会議の概要を報告する。

**[統括本部より説明]**

1．2026年の全国大会（北陸）は、11/6～9の期間で金沢・石川県立能楽堂で開催予定。今年の日韓国際会議（新潟）は、9/13～16の予定。
2．技術士CPD認定の初回登録要件は過去２年度間で良いことを周知、CPD実績を持つことが社会に対するアピールになる等の意見交換があった。
3．DEI推進宣言（3/14理事会承認）について、今後広く広報を行うが、宣言で終わりではなく、アクションが重要であり、各地域本部での取り組みを進めていただきたい。
4．技術士第二次試験の業務経歴について、大学院博士課程（理科系等）の後期課程におけるジョブ型研究インターンシップを行った期間は業務経歴として参入することができる旨、今年度の受験申込案内に記載している。

**[地域本部よりの審議事項及び意見要望等]**

1．地域委員会の委員長の任期延長を要望したい（北海道）。
→他の役職全てに影響するためこの場で了承できない。委員会は一人で運営している訳ではなくチームで運営していることから、皆で支えあうような方向に持っていっていただきたい。今後も相談には乗る（統括本部）

**[報告事項]**

1．北海道本部は、第50回技術士全国大会（札幌）(10/4～7、664名参加)の開催報告等があった。
2．東北本部は、「安全文化」を出版しており、2/14時点で625冊販売した。改めて謝辞があった。
3．北陸本部は、地域産学官と技術士との合同セミナー（新潟市）(2/20）の開催報告等があった。
4．近畿本部は、第28回西日本技術士研究・業績発表年次大会（大阪）(12/6～7,140名参加）の開催報告等があった。
5．中国本部は、第29回西日本技術士研究・業績発表年次大会（広島）(2025年11/14～15）の開催予定報告等があった。
6．九州本部は、第51回技術士全国大会（熊本・九州沖縄）(2025年10/25～28）の開催予定報告等があった。

所属：株式会社新世コンソーシアム
（E-mail：satake-yoshiro@ina.bbiq.jp）

---

## 統括本部総務委員会

### 総務委員会報告

総務委員　西井（にしい）　康浩（やすひろ）
（フェロー、建設、CPD認定、博士(工学)・北九州）

2023-25期の第11回総務委員会と同地域小委員会が2025年４月18日に開催されました。今回は九州本部会議室よりWeb形式で参加しました。

まず地域小委員会ですが、次の４地域本部から報告３題、審議１題がありましたので報告します。

**1-1.防災・減災支援研修会における協力依頼【北海道本部】**

後援依頼に関する事後の報告でした。内容については承認されましたが、手続上の問題として、メール審議のあり方が議論されました。結果として、事後に行う審議はルール違反になるとの認識が改めて確認されました。

**1-2.「標準化活用支援パートナーシップ制度」パートナー機関参加【東北本部】**

本件は保留中とのことで、正式な審議は再度申請されるとの報告でした。

**1-3.共催行事結果・外部団体委員の推薦【中国本部】**

依頼先からの評価も高く、今後、四国本部との連携も図られるとの報告でした。

**1-4.山梨県大規模災害対策士業連絡協議会加入【山梨県支部】**

士業連携協議会への加入の審議が行われ、承認されました。

続いて総務委員会の審議事項から主なものとして、次の４題の審議および報告を紹介します。

**2-1.2025年度新名誉会員について**

200余名に対し22名から応答があり、この内18名が承認され、４名が却下（不合格）されました。

**2-2.2025年度会長表彰者について**

１号（35年以上）と２号（10年以上かつ貢献者）の報告があり、その内九州本部からは２号で３名が承認されました。

**2-3.地方整備局技術評価支援に関する規則について**

規則が承認され、九州本部の活動を紹介しました。同時に記載されていたNEDO、JOGMECについては切り離し、別途規定することが提案されました。

**2-4.定款の変更案について**

ホームページ上に定款変更サイトを目立つよう設けることが附議され、承認されました。

所属：西井技術士事務所
（E-mail：nishii-yasuhiro@seagreen.ocn.ne.jp）

# 委員会・部会報告

## 総務・企画委員会

### 2024年度活動報告

総務・企画委員会委員長　末松（すえまつ）　正典（まさのり）
（機械、総合技術監理・北九州）

当会が所管する業務は以下の10項目である。

⑴　本部の組織・運営管理に関する事項
⑵　本部主催行事の企画・実施に関する事項
⑶　事業計画・報告案作成に関する事項
⑷　財務の管理に関する事項
⑸　統括本部・他地域本部・県支部及び他団体との連携に関する事項
⑹　役員会運営及び実施に関する事項
⑺　会員の顕彰に関する事項
⑻　会員拡大に関する事項
⑼　国際的活動に関する事項
⑽　その他、他の委員会の所掌にない事項

所管項目が多いため、委員12名を３つのグループに分けて対応している。

**１．第１グループ；項目⑷⑸⑹⑺を所管。**

・項目⑷；九州本部の2024年度予算と執行状況及び、会計監査の準備状況を確認した。
・項目⑸；熊本で開催される2025年度全国大会の準備は、問題なく行われていることを確認した。NETIS新技術活用評価会議（九州地方整備局）の会議に参加し情報収集に努めている。
・項目⑹；合同役員会に参加し、情報収集と共有化を図った。
・項目⑺：会長表彰、本部長表彰等にあたり、役員等履歴実績や過去の会長表彰や本部長表彰者を最新版に更新する等整理を行っている。

**２．第２グループの活動；⑵⑶⑸を所管。**

・項目⑸：北九州地区支部第15回公開シンポジウム（2024.12.14（土））を視聴した県支部の把握や、オンライン化の推進に向けて佐賀県や長崎県支部を訪問して意見交換を行った。今後隣県同士でのCPDを実施する体制整備の可能性を検討する。

**３．第３グループの活動；⑴⑻⑼を所管。**

・項目⑻：「先進建設・防災・減災技術フェアin熊本（11月20～21日）」へ参加し、「振り返り議事録」「アンケート結果」にまとめた。2025年技術士全国大会（熊本・沖縄）の準備状況は三役会議を始め、研修委員会や合同役員会等で情報共有化に努めている。

所属：末松技術士事務所
（E-mail：suematsu@hkg.odn.ne.jp）

---

## 地域産業支援委員会

### 活動報告

地域産業支援委員会副委員長　福田（ふくだ）　達彦（たつひこ）
（電気電子・大分）

地域産業支援委員会は、九州経済産業局や県の行政機関等と連携し、地域企業の振興や技術支援の推進を行うことを目指している。この推進活動における最近の取組を紹介する。

**１．九州本部・技術相談運用の活性化**

**・技術相談件数増加を目指した活動**

技術士会九州本部に対する技術相談を増やすことは、技術士の知名度が向上する⇒活躍の場が広がる⇒地域社会への貢献に繋がる、という連鎖を生み出すため、年数件で推移している技術相談件数を増やす取り組みを行っている。2023年度から討議を重ねて、2024年８月から技術士会外の一般技術者向けに各委員の専門分野の技術記事を紹介するサイト「技術士の窓」を九州本部HP内に開設し、１件/月の投稿をすべく活動している。

これらの投稿へのアクセス件数が増えれば、WEB検索での表示頻度が上がり、そこから技術相談の増加に繋げるという目論見であるが、まだ記事が４月現在７件という事もあり、その効果が現れるのは今後に期待される。

今後、投稿におけるプロセスやノウハウを整えながら、技術相談アドバイザーや他の部会・委員会に投稿の協力を頂く予定としている。

是非、アクセス件数を増やすために右のQRコードから「技術士の窓」にアクセスして、記事を開いて頂きたくお願いします。

**・技術相談対応状況**

「廃プラスチックの課題を解決する技術支援」の要請に対して、支援活動を継続中である。

**２．外部機関との連携強化の継続について**

⑻一金会参加：12/20　第261回演題「鹿児島の「稼ぐ力」の向上に向けて」（講演者：鹿児島県知事）

農林水産業、環境関連産業、企業における稼ぐ力を向上させるための取組の状況と補助金、人材確保・育成、GX（グリーントランスフォーメーション）に県として取り組んでいる。

⑼一金会参加：3/7　第263回演題「ものづくりスタートアップの未来」（講演者：(株)MGワークス代表取締役）

2022年に大分市で創業した減速機のオーバーホール、歯車の製作・補修をする企業。2024年に九州ニュービジネス大賞などを受賞。

所属：福田国際電気技術士事務所
（E-mail：fipeo@japan.nifty.jp）

# 委員会・部会報告

## 防災委員会

### 防災委員会活動

防災委員会委員長　石本（いしもと）　俊亮（としあき）
（建設・福岡）

2025年１月から６月までの活動報告と10月の全国大会に向けた活動状況を報告いたします。

**１．定例委員会**

2024年度の第４回定例委員会を３月15日（土）13時から石川ビル６階会議室での対面とWebによるハイブリッド形式で行いました。会の冒頭での委員による研究発表では、有村委員より「家庭から防災教育について考える」と題して、ご家族で取り組まれている「まちあるき」や「防災実験」などを紹介いただきました。その後、各WGの報告と防災支援委員会等の活動報告を行いました。

**２．防災授業**

**・福岡県直方市立植木小学校４年生学習発表会**

２月４日に１学期と２学期に実施した防災授業での学習結果について、４年生が保護者へ発表を行いました。あいにく雪のため防災委員会メンバーの参加は叶いませんでしたが、早めの避難の必要性やまちあるきで発見した危険個所の紹介など、しっかりとした発表が行われた事を後日確認いたしました。

**・福岡県久留米市立上津小学校防災授業**

梅雨前の６月４日に４年生134名、５年生112名に学年にあわせた防災授業を実施しました。毎年のように浸水する場所があるとの事で、元気よく学習できていました。

**３．全国大会に向けて**

**・10月26日分科会（防災）の準備状況**

「経験を活かす・備える」をテーマに、球磨川の洪水災害や九州の火山との共生に関する内容について、講師を選定し、運営等について検討を進めています。

**・ワークショップBOUSAI(10月25日)の準備状況**

統括本部の対外WGの活動となりますが、持田委員を中心に、防災委員会メンバーの協力のもと、技術士としての災害への対応について意見交換できる場となるよう準備を進めています。九州地区の技術士の皆様には積極的に参加いただきますようお願いいたします。

所属：アジア共同設計コンサルタント
（E-mail：toshiaki_ishimoto@yahoo.co.jp）

---

## 研修委員会

### 九州本部第４回CPD報告

研修委員会委員　鈴木（すずき）　淳（あつし）
（電気電子、総合技術監理・福岡）

令和７年２月22日（土）、福岡商工会議所において第４回CPDが開催され、90名（会場47名、Web43名）の参加があった。以下にその概要を報告する。

**１．「技術者としての幸福を得るために考えておくべきこと」**

講師：植木英夫（九州本部倫理委員会委員/電気電子部門）

技術者は、社会への責任を果たすために、常に研鑽し情熱を傾け、社会の課題に取り組んでいる。技術者には、課題への取り組みの成否を判断する拠り所が必要となる。技術者倫理をその拠り所として、技術者として幸福な人生を得て頂きたい。

**２．「1999.6.29の福岡県宮若市で多発した山腹崩壊について」**

講師：山部鉄朗（みどり部会長/森林部門）

近年の温暖化に伴う気候変動により激甚化している土砂災害のメカニズムを、1999年６月29日梅雨前線豪雨により発生した宮若市の同時多発的な山腹崩壊から、合理式を用いた降雨流出解析と崩壊土塊の安定解析により多面的に考察した。

**３．「サイバーセキュリティの実情と今やるべきこと」**

講師：奥新一郎（㈱BCCデジタルプラットフォームサービス事業本部デジタルサービス営業部部長）

サイバーセキュリティ脅威をより身近に身近な問題として捉えるため、大企業だけでなく九州における中小企業の事例を交え、脅威情報とその対策について説明。平時から信頼できる相談窓口を確保し、初動対応を行える体制を整えておくことが必要である。

**４．「人材育成と人工知能（AI）-AIが育てる未来」**

講師：美馬秀樹（九州大学未来人材育成機構特任教授/博士（工学））

教材の作成や学びの分析等様々なAIの教育応用が進んでいる。学問領域が複雑に融合した教育が求められる時代においては、感覚や経験だけでこれを設計するのは難しくなっており、近い将来AIによって新しい教育プログラムが作り出されるかもしれない。

所属：西日本プラント工業株式会社
（E-mail：a-suzuki@npc21.jp）

## 倫理委員会

# 活動報告

倫理委員会委員　佐竹（さたけ）　芳郎（よしろう）
（建設、総合技術監理・福岡）

2025年２月１日(土)オンライン(Teams)で開催した2024年度第４回定例会議の概要を報告する。

**１．特別講義「技術士と法律～法工学・輸出安全～」**
**講師は西尾行生（九州本部ものづくり部会長）**

・法には配慮義務が必ずあって、関連法の精神、理念を読み取って、常識で考えてどうかで行動する事が重要である。条文のグレーゾーンを争うのが裁判で、ほぼ常識で裁かれる。
・製品設計の業務は、大部分が製品安全に関すものだ。製品安全の基本中の基本は、ISO/IECガイド51である。安全は、リスクアセスメントをして可能な限り配慮せよというのが世界の常識である。
・多くの法律は、世界標準との整合性をとる。まずは世界標準、条約を地道に学習しておく。
・外為法違反にならないように、輸出する前に輸出許可を取ることである。

**２．報告事項**

**①教育啓発タスクチームより**　協賛団体への活動については、活動計画の策定⇒アンケートの集計結果をまとめる。倫理観の多様性については、学生団体へのヒアリング実施、他団体へのアプローチの実施、書籍等による研究の継続で行なう。タスクチームの活動の方向性（今後１年半目途）は⇒Zoomミーティングを土曜日又は日曜日の19時～20時30分で行う。

**②企画･配信タスクチームより**　研鑽企画「法と倫理」の研鑽方法について、委員の全員に、「発表を考えている法令」「その理由」を５月に提出していただく。６月の定例会で提出されたものを検討する。９月の定例会で、ジャンルも考え、実施計画を検討し、2026年以降の発表者を決める。

**③連携・交流タスクチームより**　2025年全国大会が九州である。その時に、技術者倫理の情報交換会がある。また、開催地域の倫理委員会活動報告（中国も含めた報告）をする。そのため、九州の倫理委員会の歴史を数人で準備したい。

所属：株式会社新世コンソーシアム
（E-mail：satake-yoshiro@ina.bbiq.jp）

---

## 青年技術士交流委員会

# 合格祝賀CPDの開催報告

山田（やまだ）　暁通（あきみち）
（情報工学・福岡）

2025年５月10日（土）、九州本部主催（福岡会場）の2024年度技術士試験（第一次及び第二次）合格祝賀CPD（研鑽会）を福岡商工会議所で開催、総勢45名（新合格者13名）が参加されました。

**■講演１「プロフェッションとコミュニケーション」**
**科学技術コミュニケーション研究所 泉優佳理 氏**

本講演では、新合格者がこれまで受験時に学んできた「プロフェッション」という言葉を再認識するため歴史的背景や研究者による定義づけを紹介して頂きました。また、技術士の知識を求める人に対して分かりやすく伝えていくコミュニケーション能力の研鑽こそが、技術士自身の公益性を担保するための必須条件であることを示してくださいました。

**■講演２「合格祝賀ワークショップ**
**「どうする？」これからの人財育成！」**
**青年技術士交流委員会　一同**

もはや恒例となった感のある「合格祝賀ワークショップ」では今回「人財育成」をテーマにしました。従来通りの方法が通用しなくなってきたなか、私たち技術士が限られた人的資源にどのように接し、技術者を育成していくかという活発な議論が行われました。

泉先生の講演内容を受けて「コミュニケーション」を主軸にした提案が多かったことが印象的でした。

**■新合格者自己紹介、記念撮影、合格者祝賀会**

講演終了後、新合格者による自己紹介と佐竹本部長を交えた記念撮影があり、会場からは合格を祝福する多くの拍手が送られました。閉会後の祝賀会（頤和園）でも、新合格者との多くの交流がありました。

**佐竹本部長を交えての新合格者集合写真**

所属：株式会社ロバストプラン
（E-mail：akimichi@robustplan.com）

# 委員会・部会報告

## 北九州地区支部支援委員会

## 2024（令和６）年度活動実施報告

北九州地区支部支援委員長　坂田（さかた）　一則（かずのり）
（金属、総合技術監理、博士(工学)･北九州）

**１．はじめに**

北九州地区支部支援委員会の2024年度のＣＰＤ研鑽会を中心とした活動実施の概要を報告する。

**２．2024年度の主な活動実施報告**

**２－１．ＣＰＤ研鑽会の継続開催**

北九州地区支部は1980（昭和55）年に設立され、2025年３月度で累計451回のＣＰＤを実施できた。2024年度も前年度に引続き、タカミヤ環境ミュージアムで９回、施設見学会(シャボン玉石けん㈱)及び、公開シンポジウム(北九州市生涯学習センター)、会場での対面とリモート配信によるハイブリッドにて11回のＣＰＤを実施した。統括本部の新ＣＰＤシステムによる参加申込も定着し、九州本部のＨＰ及び北九州地区支部独自の情報発信を行うことにより、2024年度は前年度に引き続き、合計500名の参加を得ることができた。その内訳は、会場参加が309名（62％）、Web参加が191名（38％）で、技術士会会員外の参加者は88名（18％）であった。

**２－２．技術士試験受験申込案内配布説明会開催**

第二次試験説明会を４月13日（土）13時～14時でＣＰＤと同会場で開催し、同日開催のＣＰＤと共に53名（Web21名）の参加者であった。

第一次試験説明会は６月15日（土）13時～14時に二次試験説明会と同様に開催し、44名（Web12名）の参加があった。

**２－３．会員間の交流事業開催**

北九州地区の技術士間の交流を深める目的で、７月13日のＣＰＤ研鑽会開催後に“暑気払い”、12月14日の公開シンポジウム開催後に、“技術士合格者祝賀会と忘年会”を開催した。また、CPD開催後は、東田エコクラブを会場として“情報交流会”を開催してきたが、2025年度からは会場都合で開催できなくなったことは残念である。

所属：坂田一則　技術士・労働安全コンサルタント事務所（ E-mail：ksakata@bronze.ocn.ne.jp）

---

## 建設部会

## CPD報告

建設部会幹事･事務局次長　藤島（ふじしま）　義久（よしひさ）
（建設、総合技術監理・福岡）

2025年２月27日(木)、博多石川ビルにおいて開催しました技術講習会について報告いたします。会場22名、WEB16名、合計38名の参加を得ました。

今回は、増大する河川災害に対して水位予測の現状や環境保全への対応をテーマに企画いたしました。

最初に**福岡大学工学部准教授の橋本彰博氏から「将来気候下の降雨特性と深層学習による河川水位予測の現状」**と題してご講演をいただきました。この中で、深層学習を用いた河川の水位予測に対して、まず筑後川流域を事例にその精度を高める手法として地点雨量とともに水蒸発量を与える手法を提案され、得られた検証結果や今後の検討事項をご紹介されました。同様に川内川流域の水位予測結果についてもご紹介され、補足を加えながら分かりやすく説明されました。

さらに、二級河川を対象とする深層学習を用いた水位予測モデルでは、メッシュデータの差異による検証から実用化に向けた今後の課題を提起されました。

続いて、**熊本大学大学院先端科学研究部教授の皆川朋子氏から「NbSをベースした流域治水×環境再生」**と題してご講演いただきました。導入に生物多様性、人口減少と高齢化、気候変動への危機対応策の一つとして、自然に根ざした解決策NbSの説明をされました。さらにNbSをベースに自然が持つ洪水緩和機能を活かし、豊かな自然環境や生物多様性の保全・再生を実現する手法と併せて、これまでの取り組みを紹介されました。表流水や地下水の流れを表現する水循環モデルの構築が流域治水×環境再生の推進に重要なツールであることや、川づくりにおいて環境再生に貢献する整備のあり方を球磨川等の例から説明され、持続可能な治水機能や生物多様性の保全に企業やNPOとの共創の必要性にも言及されました。

土木技術のアイデアやマネジメント力が問われる今日、技術士会の持つ多くの分野の連携に期待したいと結ばれたのが印象的でした。

所属：株式会社日建技術コンサルタント九州支社
（ E-mail：pfujhima0720@yahoo.co.jp）

## 建設部会

# 建設部会報告

建設部会長　岡田（おかだ）　裕彰（ひろあき）
（建設、総合技術監理・福岡）

本年度第１回目の建設部会運営員会を九州本部会議室で開催(４月22日)したので報告します。

尚、幹事14名中12名が出席しました（写真右下）

**１．役員体制について**

新たな幹事として昨年12月に池田秀司氏、今年４月に原田昌宏氏が就任しました。また副部会長は、緒方隆哉氏並びに友納敏氏の２名体制となりました。

引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

**２．昨年度の活動について**

昨年度は現地見学会を11月13日に開催し、福岡空港並びに国道201号八木山バイパスの２か所を視察しました(参加30名)。当日は好天にも恵まれ充実した見学会とする事ができました。また、技術講演会は2025年２月27日に昨年同様に会場とWEB配信の併用方式で実施し(参加38名)、九州各県在住の会員の皆様にもWEBで参加していただきました。

尚、講演会の詳細は本誌に藤島幹事が報告していますのでご参照ください。

また、その他の活動として、第50回技術士全国大会の関連行事として開催された建設部会意見交換会（10月３日開催）に出席し、全国の各地域本部の建設部会の活動内容や課題等について意見交換を行いました。

**３．今年度の活動方針について**

技術講演会については、地方在住の会員の皆様の参加機会の確保という観点から今年度もWEB併用方式で開催する方針といたしました。また、現地見学会については、福岡県内のプロジェクトを中心に視察先を選定していくこととしました。技術講演会・現場見学会の実施時期・内容等の詳細は、決定次第HP等でお知らせいたしますので、よろしくお願いいたします。

今後とも会員の皆様のニーズに沿った技術講演会や現地見学会等の企画に積極的に取り組んでいきますので、引き続きご協力よろしくお願いいたします。

所属：西鉄シー・イー・コンサルタント株式会社
（E-mail:hiroaki.okada.km@nnr-g.com）

---

## 環境部会

# 環境部会報告(幹事会)

環境部会長　松田（まつだ）　研志（けんし）
(上下水道、建設、総合技術監理･福岡)

**１．はじめに**

環境部会は、九州地区の上下水道部門、衛生工学部門、環境部門の３部門からなる部会です。

本稿では、2025年５月12日（月）に実施した環境部会第１回幹事会について報告いたします。

**２．2025年度活動計画と体制の確認**

環境部会の幹事会は13名の幹事で構成されています。今年度から副部会長を２名とし、村橋氏と工藤氏が副部会長に選任されました。

今年度は例年のように、講演会１回と見学会１回を実施することを確認しました。また、講演会は会場参加とオンライン参加を併用（共に有料）することとしました。

**３．講演会の計画**

今年度の講演会のテーマは、複数の案の中から「九州のエネルギー」と「流域治水」としました。

「九州のエネルギー」については、九州の特性を生かしたエネルギー開発について､「流域治水」については、頻発する降雨災害の被害をいかに減少させるかについて、講演していただく予定です。

講演会の開催時期は、９月下旬としました。

今年度の公演会は、会場参加とオンライン参加を併用しますので、多数の参加をお願いいたします。

**４．見学会の計画**

今年度の見学会の見学先とテーマは、①海の中道奈多海水淡水化センター（テーマ：未利用資源で浸透圧発電）②西部ガスひびきＬＮＧ基地（テーマ：メタネーション実証事業）としました。共に新技術であり、大変興味深い内容です。

見学会の開催時期は、12月上旬としました。

多数の参加をお願いいたします。

所属：松田技術士事務所
（E-mail：matsu1@docomonet.jp）

# 委員会・部会報告

## ものづくり部会

### 活動報告

ものづくり部会幹事　柿本（かきもと）　悦二（えつじ）
（金属・佐賀）

ものづくり部会は、2024年度に４回のCPDを開催しました。2024年度から部会の運営やCPDの開催方法について幹事会で議論を繰り返しながら試行錯誤を繰り返しています。本稿ではその一部に関してご紹介したいと思います。

2024年度からは幹事会を完全リモート会議として、資料の共有はTeamsのグループチャットとOne driveを活用、資料の読み上げは極力少なく、議論を中心に幹事会に取り組み、土曜日の10時から２時間の幹事会を９時から目標10時終了とすることで幹事の負担感を低減するなどの取り組みを行っています。以前は「承知しました」だけのメールが飛び交っていたためメールチェックも大変でしたが、今は対外的な連絡や幹事会開催案内等の必要最低限のやり取りだけで、過去のメールを探し回る必要もなくなり効率化できました。

さて、CPDに関しては、３/４回は完全リモートで開催し、１時間の講演に対し30分の質疑応答を行い、質問者に偏りが出ないような工夫も行い、延べ189名の参加者のうち75名と約４割が九州本部以外からの参加となりました。このような分析を行えるのも、参加者のリスト化を開始した為で、過去CPDに参加いただいた皆様に、毎回ご案内を発信するなど”顧客フォロー”を継続し活動を活発化しています。

１/４回は特別開催として完全ローカルで開催。公安調査庁の方に輸出管理に関するリモートでは話しにくい内容のご講演をいただきました。とても有意義な講演でしたが、参加者が21名にとどまり、CPD開催PRの問題として認識、今後さらに積極的・有効的な広報を考えていきたいと思います。

以前の部会活動は、福岡市周辺に居住していないと積極的な参加は難しかったと考えますが、今やリモート会議の活用で部会活動参加が容易になっており、これを機に多くの皆さんに参加いただきたいと考えます。お気軽にご連絡ください。

所属：柿本技術士事務所
（E-mail：etsu.kakimoto@nifty.com）

# 支部だより

## 北九州

### 情報交換会再開

北九州地区支部
支援委員会委員　八百屋（やおや）　さやか
（衛生工学・北九州）

北九州地区支部支援委員会では、毎月のCPDの後に講師、技術士間で情報交換会を行っている。この情報交換会は、講師とCPDのテーマを更に深めたり、異業種間の技術士交流を図る目的で実施されている。

私が参加したのは、2010年からで、当時は北九州市戸畑生涯学習センターでCPDが開催されており、情報交換会は近くの小料理屋で開催されていた。勿論アルコール有りである。２次会も同じ場所で、話足りない面々が残ってさらに議論を深めていた。なお、２次会は、１次会で食べきれなかった料理を整理して肴としており、このエコなシステムが私は大変気に入っていた。

2012年からは、CPD会場を北九州イノベーションギャラリーに移し、会場の一角を借りて、飲食持ち込みで開催された。会費は1,000円と参加しやすく毎回30名以上の参加があった。しかしその後のCOVID19の影響や、会場の変更に伴い４年近く開催されていなかった。

そのような中、昨年度から「情報交換会を再開させよう」という有志メンバーの尽力により、情報交換会が再び企画されている。

思い起こせば、私が初めて北九州に来た時、当会に参加し、産官学様々な方とつながることができ大変有難かった。上下関係などないフラットな会なので、ぜひ多くの方に参加をお勧めしたい。

**2025年５月の情報交換会（平野研氏撮影）**

所属：株式会社エックス都市研究所
（E-mail：sayaka.yaoya@exri.co.jp）

熊　本

## 令和６年度の活動実績

熊本県支部長　髙山（たかやま）　祐二郎（ゆうじろう）
（建設・熊本）

県支部では、活動実績として、ＣＰＤ研修会４回（８つのテーマ）、現地研修会１回、会員交流会（ゴルフコンペ）１回開催しました。

⑴　ＣＰＤ研修会

①　南海トラフ地震と南海トラフ地震臨時情報について
（講師：田中宏樹氏　熊本地方気象台）

②　球磨川流域の復旧・復興「緑の流域治水」の取り組み～命と清流を守る～について
（講師：江口貴弘氏　熊本県企画振興部球磨川流域復興局）

③　熊本県の地下水保全対策について
（講師：北之園健憲氏　熊本県環境生活部環境局環境立県推進課）

④　震災体験から学ぶ　くらし安心術について
（講師：柳原志保氏　防災・安心プランナー）

⑤　４回の阿蘇火砕流噴火の先駆的活動について
（講師：池辺伸一郎氏　（公財）阿蘇火山博物館学術顧問）

⑥　線状降水帯について
（講師：清家裕喜氏　熊本地方気象台）

⑦　学校における防災教育について
（講師：柴田敏博氏　ＮＰＯ法人くまもと防災士会）

⑧　技術士倫理綱領の考察について
（講師：髙山祐二郎氏　熊本県支部）

⑵　現地研修会

現地研修会では、「熊本城宇土櫓（五階櫓）」の工事現場､「半導体産業がもたらす熊本への期待　そして未来について」学習し、令和２年７月球磨川豪雨災害について、球磨村管内の復旧・復興状況を視察しました。

⑶　会員交流会（ゴルフコンペ）

３回目を開催し、ゴルフを通じて和やかな雰囲気の中、会員同士の交流を深めることができました。

⑷　「第51回技術士全国大会（熊本・九州沖縄」は、2025年10月25日(土)～10月28日(火)に開催されます。会場は、熊本城の城下町に位置する熊本城ホールです。「くまモン」も待っています。

所属：株式会社ジョーナンテクニカル
（E-mail：takayama-y@ab.auone-net.jp）

---

宮　崎

## 小学生への河川環境教育

神田（かんだ）　稔弘（としひろ）
（建設、総合技術監理・宮崎）

宮崎市では、市の事業として環境保全クラブというものがあり、小学４年～６年生、約24人を対象に、大淀川での保全活動をとおして自然環境や生態系の維持を図るための学習を行っています。クラブ生徒が、身近な些細な事にでも環境保全を率先して行える人物、また、将来的には環境保全活動の指導的な人物へと成長していくことを目指して活動を行っています。

保全クラブの活動は、７月から12月までの６か月間、月１回のペースで行われており、最初にオリエンテーションを実施した後、植物編として２回と動物編として２回、自分なりに設定したテーマについての観察や保護･保全活動を行い、最終月である12月に、保全クラブの中で考えたり実行したことを発表するという形式で実施されています。

活動対象としているエリアは、大淀川に架かる天満橋の下、せせらぎ水路から流れてきた小川で、ここは数年かけて絶滅危惧種の保護としてタコノアシを移植してきた場所でもあります。

クラブ生徒は、小川の中に入ることはもちろん、カヌーに乗り川からの風景を観察したり、魚の放流をやったりと多様な活動を経験します。

最終回の発表の時には、今回の環境クラブでの体験を通して、自然環境に対する見方が変わり「科学者に将来なりたいと思う。」と発表する小学生も出てきており頼もしい限りです。

まだまだ自然が残っている宮崎ですが、川の中に入って魚を採っていた子供の頃を思い出してみると、そういった機会の少ない今の子供達に自然と直に触れ合う機会を作ってあげないといけないなと思っているところです。

所属：株式会社ジャストエンジニアリング
（E-mail：t-kanda@justeng.co.jp）

# 支部だより

## 鹿児島

### 認知度向上

鹿児島県支部長　井内（いうち）　祥人（よしひと）
（フェロー、森林、博士(農学)･鹿児島）

**１．会員名簿公開**

CPD活動実績管理制度が始まり、会員名簿が統括本部HP上で公開されるようなった。一方、支部会員名簿は一部の幹事が保有しているだけで公開されていない。九州本部から提供される会員名簿は個人情報が多いため、このような取り扱いになっている。しかし、支部活動を推進するためには、一つの障害にもなっている。お互い支部会員であるはずなのに、公開された名簿がないため、知らずに過ごしている状況であった。そこで当支部では、2024年11月から統括本部と同じ方法で、名簿掲載希望者の部門と氏名をHPで公開している。現在、公開を希望している会員は、当支部会員の３割となっている。できるだけ多くの会員が掲載に同意して頂くよう働きかけを行っている。当支部のHPをご覧いただければと思う。県民に対する技術士知名度・認知度向上対策の一つである。

**２．鹿児島市議会答弁に「技術士」名称登場**

先日、市議会だよりが届いた。2025年第１回定例会の議会概要が掲載されている。その中で「技術士」という名称が目についた。それはある党の代表質問に対して、当局（鹿児島市）が答弁した内容での文言である。質問は「市外郭団体の職員採用に当たって、業務に必要な資格を取得した人数等は」である。これに対する市の答弁は「採用した人数は74人で、学芸員、土地区画整理士、測量士、技術士、技術士補の資格を合計９人が取得している。」というものである。

実は、当支部では本誌「技術士だより・九州」を人口10万人以上の県内４市に毎回配布している。特に、県内人口の４割を占める鹿児島市には、17の部課長に届けている。また、配布時の鏡文には必ず、「ご一読後は部下に回覧して頂くよう」というお願いの文言も添えている。このように、これまでの配布活動の成果と考えられる。市の議会答弁に名称が登場したことは、「技術士」が認知されたのではと考えている。

所属：中央テクノ株式会社
（E-mail：iuchi@chuuou.jp）

# CPD報告

## 宮　崎

### 2024年度CPD報告

事務局長　満留（みつどめ）　康裕（やすひろ）
（建設、総合技術監理・宮崎）

宮崎県支部主催で昨年度開催しましたＣＰＤの概要について報告します。

**１．第１回ＣＰＤ（2024年11月30日（土））**

参加者数　16名（正会員　13名　非会員３名）

⑴**「公共土木施設の災害復旧事業制度について」**

講師　後藤信孝　様

（公社）全国防災協会災害復旧技術専門家

九州建設コンサルタント(株)福岡支店駐在

近年の気候変動に伴い大規模災害からの早期の復旧・復興が喫緊の課題となっているため、これらに関わる技術者に求められる公共土木施設災害復旧事業制度に係る最新の知見を講演いただきました。

⑵**「宮崎県内の低地地盤の特徴と工学的課題－宮崎市の地盤を中心として」**

講師　松川浩一　様　松川技術士事務所

宮崎県内の主要都市は低地に位置するため、各都市で特徴的な地盤を構成しています。これにより公共構造物の維持管理や防災対策において地盤に関わる問題の発生が懸念されることから、県内の地盤問題を考える機会となりました。

**２．第２回ＣＰＤ（2025年２月28日（金））**

参加者数　26名（正会員　13名　非会員13名）

⑴**「建設ＤＸによる省人化への挑戦」**

講師　木下哲治　様　旭建設(株)取締役専務

建設業界では従事者の高齢化や担い手不足に加え、2024年度問題である時間外労働の上限規制など、人手不足が深刻的な問題となっている中で建設DXを駆使した省人化及び生産性向上について講演いただきました。

⑵**「嘘・騙し・暴力の心」**

講師　岩尾雄四郎　様

(株)バイオテック　技術顧問

ヒトが展開してきた社会システムの変遷を分析する中で、為政者の行動を振り返り、権力者の作る制度や法律、罰則と庶民の反応を考察し、個人としての倫理観と技術者としての倫理観の在り方について講演いただきました。

講師は宮崎県支部会員から選任することで、会員が保有する知見の支部内水平展開が計られるとともに、県外からも来演いただき有意義なＣＰＤとすることが出来ました。

所属：株式会社都城技建コンサルタント
（E-mail：yasu-mitsudome@kyudai.jp）

鹿児島

# 第46回 CPD講演会報告

研修副委員長 恒吉（つねよし） 明彦（あきひこ）
（農業・鹿児島）

**1．はじめに**

2025年５月10日(土)、鹿児島市勤労者交流センターで第46回CPD講演会を開催した。県内外からオンライン受講者３名を含む43名（うち会員37名）の参加を得た。

**講演１．『生命倫理～生物工学技術と研究者倫理～』岩見　裕子氏（日本技術士会九州本部倫理委員会/大分大学理工学部）**

生命倫理とは、これまで「医師の倫理」とか「医療の倫理」と呼ばれていたものであるが、医療の科学技術化の発展と人権意識の高揚とが相まって、人間の生命に対する干渉の是非を検討しなければならなくなったという背景を持つ。主な論点としては、生命に対し人の操作を加えることについて、どこまで許容されるか？体外受精や安楽死の問題。また、デザイナーベイビー等においては子供の意思が不在等の問題がある。また、どの段階から命とみなすか、どの状態までが命か？等生命倫理は地域性、文化、宗教観、生死観、法律によって異なる。従って国や機関は法律やガイドラインを整備する必要がある。研究者倫理についても捏造、改ざん、盗用等を行わず公正かつ誠実な履行を行う研究者への教育と研究者自身の倫理感が大切との話であった。

**講演２．『ふるさとの記憶を残すこと』佐藤　宏之氏（鹿児島大学教育学部准教授）**

我々の社会は、地震・津波・集中豪雨・噴火等の自然環境の変化や人口減少・高齢化による代替わり、家の建て替え等の歴史環境の変化により様々な潜在的課題を内包している。災害への対応は、単に元に戻す復旧ではなく、被災を契機によりよい社会を作り出す創造的復興でなければならない。昔の天気を知る資料として古日記が役に立つ。江戸時代は、兵農分離や参勤交代制度を広く民に伝えるための手段として文書が発達し、世界史上稀にみる文書社会といえる。このころに書かれた古日記をひも解くと、当時の寒暖等気候の変化が解読できる。これは、科学的に樹木の年輪から解析した気候変動とも概ね一致する。現代では避難のあり方等もマニュアル化されているが、過去に発生した災害の経験をもとに災害を単に恐れるのではなく科学的に見る目を養い防災等に役立てる対応力が必要との話であった。

所属：中央テクノ株式会社
（E-mail：at3459@nils.ne.jp）

# 会員ニュース

## 公益社団法人 日本技術士会(九州本部) 入会

〈令和７年２月〉

| (所在地) | (区分) | (氏名) | (部門) | (勤務先) |
|---|---|---|---|---|
| 福　岡 | 正会員 | 野中　浩二 | 建　　設 | 福岡県庁県土整備部福岡県土整備事務所 |

〈令和７年３月〉

| (所在地) | (区分) | (氏名) | (部門) | (勤務先) |
|---|---|---|---|---|
| 福　岡 | 正会員 | 後藤　　清 | 電気電子 | 電設コンサルタンツ株式会社九州支店技術部 |
| 沖　縄 | 正会員 | 内倉　勇介 | 建　　設 | 株式会社鴻池組九州支店 |
| 福　岡 | 正会員 | 笠原　洋二 | 建　　設<br>森　　林<br>応用理学<br>総合技術監理 | 国土防災技術株式会社技術本部 |
| 熊　本 | 正会員 | 首藤　繁雄 | 建　　設 | 株式会社スペース・グリーン |
| 福　岡 | 正会員 | 田中　賢一 | 建　　設 | 日本工営都市空間株式会社九州支店社会基盤部 |
| 沖　縄 | 正会員 | 永山　拓朗 | 建　　設<br>総合技術監理 | 宜野湾市基地政策部 |
| 福　岡 | 正会員 | 平生　昭二 | 建　　設<br>総合技術監理 | 株式会社建設技術研究所　九州支社河川部 |
| 長　崎 | 正会員 | 古谷　正樹 | 建　　設 | 西日本開発株式会社技術部 |
| 福　岡 | 正会員 | 松島　智雄 | 建　　設 | 日本工営都市空間株式会社九州支店都市開発部 |
| 福　岡 | 正会員 | 小田　幸広 | 上下水道 | 株式会社九電工薩摩川内営業所 |
| 福　岡 | 正会員 | 綿谷　博之 | 応用理学<br>総合技術監理 | 株式会社建設技術研究所　九州支社 |
| 佐　賀 | 準会員 | 篠原　保信 | 機　　械 | 大塚製薬株式会社エンジニアリング部 |
| 福　岡 | 準会員 | 楠本　優一 | 電気電子 | 東京海上日動火災保険株式会社九州損害サービス第一部 |
| 熊　本 | 準会員 | 李　　彊 | 電気電子 | 東京エレクトロン九州株式会社プロセス技術部基礎開発Gr |
| 鹿児島 | 準会員 | 田中　直毅 | 化　　学 | 株式会社サナス |
| 大　分 | 準会員 | 山下　雅史 | 金　　属 | JX金属製錬株式会社佐賀関製錬所技術部 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 福　岡 | 準会員 | 大坪　浩介 | 建　　設 | ： | 株式会社竹中工務店生産統括部設備施工３Ｇ（福岡FMC） |
| 鹿児島 | 準会員 | 勝沼　　元 | 建　　設 | ： | 株式会社大雅技術部鉄道グループ |
| 熊　本 | 準会員 | 高橋　裕介 | 建　　設 | ： | 株式会社ワコー開発事業部 |
| 福　岡 | 準会員 | 高峯　　高 | 建　　設 | ： | 日本工営株式会社福岡支店技術第一部都市地域整備グループ |
| 長　崎 | 準会員 | 三丸　政章 | 建　　設 | ： | 永川建設株式会社工事部 |
| 福　岡 | 準会員 | 平井　康隆 | 上下水道 | ： | 株式会社建設技術研究所九州支社河川部 |
| 福　岡 | 準会員 | 井上　　篤 | 農　　業 | ： | 基礎地盤コンサルタンツ株式会社九州支社設計部 |
| 福　岡 | 準会員 | 佐野　玄周 | 情報工学 | ： | パナソニックコネクト株式会社回路形成プロセス事業部 |
| 福　岡 | 準会員 | 中田　光一 | 情報工学<br>総合技術監理 | ： | 警察庁九州管区警察局情報通信部 |
| 大　分 | 準会員 | 木村　武蔵 | 生物工学 | ： | 三和酒類株式会社 |
| 熊　本 | 準会員 | 植弘　　隆 | 総合技術監理 | ： | 株式会社オリエンタルコンサルタンツ九州支社河川砂防港湾部 |
| 宮　崎 | 準会員 | 猿渡　崇宏 | 総合技術監理 | ： | 旭化成ライフサイエンス株式会社プラノバ生産本部 |
| 福　岡 | 準会員 | 田上　貴裕 | 総合技術監理 | ： | 東邦地下工機株式会社西部工事部 |
| 大　分 | 準会員 | 中田　成幸 | 総合技術監理 | ： | 株式会社三井E&S物流システム事業部制御システム部 |
| 福　岡 | 準会員 | 藤塚　佳晃 | 総合技術監理 | ： | 株式会社建設技術研究所九州支社ダム部 |
| 熊　本 | 準会員 | 堀　　清隆 | 総合技術監理 | ： | ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社IS・車載製品部門実装開発部 |
| 福　岡 | 準会員 | 弥氷　企史 | 総合技術監理 | ： | 株式会社九電工本社空調管設計部 |

〈令和７年４月〉

| （所在地） | （区分） | （氏名） | （部門） | | （勤務先） |
|---|---|---|---|---|---|
| 福　岡 | 正会員 | 山本　健義 | 電気電子 | ： | 西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社設計技術部 |
| 大　分 | 正会員 | 山下　雅史 | 金　　属 | ： | JX金属製錬株式会社佐賀関製錬所技術部 |
| 福　岡 | 正会員 | 池田　　一 | 建　　設 | ： | 日本工営株式会社福岡支店国土保全部 |
| 大　分 | 正会員 | 江藤　　等 | 建　　設 | ： | 日本工営株式会社福岡支店チーフエンジニア |
| 福　岡 | 正会員 | 古賀　健太 | 建　　設 | ： | 株式会社オリエンタルコンサルタンツ九州支社総合計画部 |
| 沖　縄 | 正会員 | 末津　和典 | 建　　設<br>衛生工学<br>農　　業<br>環　　境<br>総合技術監理 | ： | 株式会社沖縄環境保全研究所 |
| 熊　本 | 正会員 | 高橋　裕介 | 建　　設 | ： | 株式会社ワコー開発事業部 |
| 佐　賀 | 正会員 | 田中　繁之 | 建　　設 | ： | 日本建設技術株式会社建設&コンサルタント事業本部コンサルタント事業部 |
| 福　岡 | 正会員 | 椿原　通孝 | 建　　設 | ： | 株式会社太平設計 |
| 熊　本 | 正会員 | 仲田裕一郎 | 建　　設<br>環　　境<br>総合技術監理 | ： | 株式会社大進コンサルタント 取締役 |
| 福　岡 | 正会員 | 西川　晋弘 | 建　　設 | ： | 株式会社エー・アール・イー技術部 |
| 福　岡 | 正会員 | 細野　貴裕 | 建　　設<br>応用理学 | ： | 日本工営株式会社福岡支店基盤技術部地質地下水グループ |
| 福　岡 | 正会員 | 増澤　範篤 | 建　　設 | ： | 前田工繊株式会社福岡支店 |
| 沖　縄 | 正会員 | 三好　伸浩 | 建　　設<br>環　　境 | ： | 日本工営株式会社沖縄支店 |
| 福　岡 | 正会員 | 森藤　敏一 | 建　　設<br>総合技術監理 | ： | 株式会社建設技術研究所九州支社 |
| 福　岡 | 正会員 | 若本　晃一 | 建　　設 | ： | 北九州市都市整備局河川公園部 |
| 福　岡 | 正会員 | 後藤　晋作 | 上下水道 | ： | 北九州市役所上下水道局西部工事事務所 |
| 福　岡 | 正会員 | 田村　和也 | 上下水道 | ： | 株式会社三水コンサルタント西部支社西日本事業本部西部事業部技術部 |
| 沖　縄 | 正会員 | 松川　精吾 | 上下水道 | ： | 本部町役場 |
| 福　岡 | 正会員 | 鈴木　康禎 | 衛生工学 | ： | 株式会社九電工技術管理部 |
| 福　岡 | 正会員<br>準会員 | 濱田　裕太 | 農　　業<br>建　　設 | ： | 株式会社フタバ設計技術部 |
| 熊　本 | 正会員 | 甲斐　克明 | 森　　林 | ： | 株式会社森林総合技術コンサルタント技術部 |
| 福　岡 | 正会員 | 角　　達朗 | 森　　林 | ： | 株式会社州崎建設コンサルタント技術部 |
| 佐　賀 | 正会員 | 山口　敬貴 | 森　　林 | ： | 西日本総合コンサルタント株式会社技術部門 |
| 鹿児島 | 正会員<br>準会員 | 大野　圭佑 | 応用理学<br>建　　設 | ： | 日本地下石油備蓄株式会社 |
| 鹿児島 | 正会員 | 三田　和朗 | 応用理学<br>総合技術監理 | ： | 長寿補強土株式会社技術営業部 |
| 福　岡 | 準会員 | 白水　芳雄 | 電気電子 | ： | 株式会社白水電気管理事務所総務部 |
| 宮　崎 | 準会員 | 椎葉　太志 | 建　　設 | ： | 株式会社尾前設備工業 |
| 熊　本 | 準会員 | 達見　善勝 | 建　　設 | ： | 株式会社西日本建設コンサルタンツ |
| 福　岡 | 準会員 | 田村　和也 | 建　　設 | ： | 株式会社三水コンサルタント西部支社西日本事業本部西部事業部技術部 |
| 長　崎 | 準会員 | 中島　洋平 | 建　　設 | ： | 大石建設株式会社長崎支店第八つる号 |
| 福　岡 | 準会員 | 山崎　雅夫 | 建　　設 | ： | 株式会社復建エンジニヤリング都市開発事業部福岡支社 |
| 福　岡 | 準会員 | 奥田　敏博 | 衛生工学 | ： | 株式会社九電工技術本部技術開発部 |
| 福　岡 | 準会員 | 中池　和輝 | 衛生工学 | ： | 九州大学大学院人間環境学研究院 |
| 熊　本 | 準会員 | 相原　一幸 | 農　　業 | ： | 西日本測量設計株式会社 |
| 福　岡 | 準会員 | 川島　大稀 | 応用理学 | ： | 建設技術研究所地圏環境部 |
| 佐　賀 | 準会員 | 山口　正純 | 生物工学 | ： | 千寿製薬株式会社生産本部唐津工場品質部 |
| 福　岡 | 準会員 | 城島　　健 | 環　　境 | ： | 一般財団法人九州環境管理協会環境部 |

# 技術士全国大会

IPEJ ANNUAL CONFERENCE

第51回

大会テーマ かたろう技術のミライ×つなごう技術のチカラ
集え～火の国・水の国～

**会期** 2025 10/25(土)-10/28(火)

**会場** 熊本城ホール
〒860-0805
熊本市中央区桜町３番40号
https://www.kumamoto-jo-hall.jp
ウェブサイト QRコード

**大会構成**

DAY1
■関連行事 ■ウェルカムパーティ

DAY2
■第1～第4分科会
■大会式典 ■分科会報告 ■記念講演
■交流パーティ ■パートナーズツアー

DAY3/4
テクニカルツアー
A 日帰り／一泊二日 B

公益社団法人 日本技術士会
The Institution of Professional Engineers, Japan

主催：公益社団法人 日本技術士会
事務局：公益社団法人 日本技術士会九州本部 第５１回技術士全国大会（熊本・九州沖縄）実行委員会
後援（予定）：文部科学省 ほか

## 開催プログラム PROGRAM

| | | | |
|---|---|---|---|
| 10月25日(土) | 関連行事 | 委員会・部会による連絡会議・専門部会 | 熊本城ホール3F 会議室他 |
| | ウェルカムパーティ | | 熊本城ホール3F |
| 10月26日(日) | 第1分科会 | 防災 ―連携のチカラ― 「経験を活かす・備える」 | 熊本城ホール3F 会議室 |
| | 第2分科会 | 青年 ―ミライのチカラ― 「ミライを支える技術者」 | |
| | 第3分科会 | 地域 ―高まるチカラ― 「ハイテク産業の集積と地域の未来」 | |
| | 第4分科会 | 人材 ―はばたくチカラ― 「人口減少社会における人材育成」 | |
| | 大会式典 | | 熊本城ホール2F シビックホール |
| | 分科会報告 | | |
| | 記念講演 | 九州大学名誉教授・熊本大学客員教授―松田泰治氏―<br>「2016年熊本地震の教訓に学ぶ～更なる創造的復興に向けて～」 | |
| | 交流パーティ | | 熊本城ホール3F |
| | パートナーズツアー | 山鹿灯籠民芸館・八千代座ほか | 県北コース |
| 10月27日(月) | テクニカルツアーA | 益城町・南阿蘇村・熊本地震震災ミュージアムほか | 日帰りコース |
| 10月27日(月)<br>10月28日(火) | テクニカルツアーB | 人吉・球磨 2020年九州豪雨災害遺構・人吉温泉ほか | 1泊2日コース |

※プログラム及びツアーの内容は都合により変更する可能性があります。

## 記念講演 CEREMONY

2016年 熊本地震の教訓に学ぶ ～更なる創造的復興に向けて～

2016熊本地震から得た教訓を振り返り、地域防災力向上に繋げるとともに、
新たな社会経済動向を活かした更なる創造的復興に向けて、その課題や展望を探ります。

専門分野 ： 地震工学・都市防災・リスクマネジメント

九州大学名誉教授・熊本大学客員教授
TAIJI MAZDA 松田 泰治 氏

## お問い合わせ CONTACT

公益社団法人 日本技術士会九州本部 事務局 ／ 第５１回技術士全国大会（熊本・九州沖縄）実行委員会
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3丁目19番5号 博多石川ビル 6階D2号室
TEL 092-432-4441 FAX 092-432-4443
EMAIL pekyushu@nifty.com WEBSITE https://www.pekyushu.com

# 九州本部青年技術士交流委員会 メンバー募集案内

九州本部青年技術士交流委員会は、概ね45歳以下（やる気があれば何歳でもOK！）のメンバーで構成され、家庭・職場に次ぐ第3の交流の場です。様々な部門の技術士の相互交流を通して自己啓発・社会貢献・人脈形成など様々な経験・成長を実感できるはず！
合い言葉は「できる人が、できる時に、できることを」とし、楽しみながら様々な活動をしています。
あなたも一緒に活動してみませんか？

## 活動の三本柱

| 研鑽活動 | 普及活動 | 交流活動 |
|---|---|---|
| ・CPD<br>・見学会<br>・夏休み自由研究<br>・公開講演会<br>・研鑽会　など | ・技術士制度説明講義<br>・JABEE認定課程支援活動(大学・高専での講義)<br>・女性技術者・女子学生懇談会　など | ・合格祝賀会<br>・納涼会<br>・忘年会<br>・ゴルフ大会　など |

応募の詳細は
こちらから！

QRコード

問い合わせ先:kyusyu.seinen.pe@gmail.com　担当:大川

応募フォームURL:https://bit.ly/3fxXsnv

# 第51回 技術士全国大会（熊本・九州沖縄）

## 第51回 技術士全国大会（熊本・九州沖縄）開催に向けて

第51回技術士全国大会実行委員長 清﨑（きよさき） 淳子（じゅんこ）
（応用理学、博士（理学）・熊本）

2025年（令和７年）10月25日（土）～10月28日（火）に第51回技術士全国大会（熊本・九州沖縄）が開催されます。１日目の関連会議、ウェルカムパーティから２日目の分科会、式典、分科会報告、記念講演、交流パーティは、熊本市の中心部に位置する「熊本城ホール」が会場です。建物の上層部は宿泊施設でバスターミナルが併設されており、低層階には商業施設も入る総合施設になっています。

九州本部が担当する技術士全国大会は、2014年（平成26年）の福岡大会以来11年ぶりの開催となります。熊本での開催は、９年前の2016年（平成28年）４月に発生した熊本地震、2020年（令和２年）７月の豪雨災害等、数々の甚大な災害被害からの復興の様子を見たい、という声が多く寄せられていたことから企画されたという経緯があります。全国から技術士が参加され、意義深い学びや交流の場となりますよう、開催担当としての九州本部が一丸となって準備を進めているところです。まだ準備半ばであり、現状でのご紹介となりますが、決定している部分等はお伝えしていきたいと思います。

全国大会に関する情報は、九州本部のホームページにて公開中です、全国大会のバナーができていますので、そこから入って情報をご覧ください。昨年10月の北海道大会で配布した「フライヤー」やこの４月に作成した「開催告知」も見ることができます。また、お知らせの欄には、関連行事の情報も揚げています。各委員会や部会にヒアリングさせていただき、都度いただいた情報は更新するようにしています。今のところ１ヶ月に１回は新しい情報をまとめた資料を掲示しようと小委員会を中心に作業を進めています。

本大会のテーマは、「かたろう技術のミライ×つなごう技術のチカラー集え～火の国・水の国～」です。あえて、ひらがなとカタカナを配置した組み合わせにしています。まず熊本の象徴は何かと考えた時、ポスターには熊本城をということが一番に思い浮かびました。そして阿蘇や水前寺といった、火の国・水の国、また、熊本市は森の都の呼び名もあり、次々とイメージが湧いてきました。さらに、天草の綺麗な景色も球磨地域の国宝もと、あれこれ盛りだくさんになっていき、落ち着いたのが出来上がったフライヤーです。表をそのままポスターとして印刷し、統括本部や各地域本部へお届けしたところです。思えば、地域のいいところに目を向ける機会はそうそうなく、今回とてもいい時間をいただいたと思って取り組んでいるところです。火の国の象徴である阿蘇カルデラは、世界ジオパークに認定（阿蘇ユネスコジオパーク）されていますし、熊本市の水道は全て地下水で賄っています（約74万人の人口を賄う日本で唯一の「地下水都市」です）し、改めて熊本のいいところを探す機会となりました。

10月26日（日）の午前中は、今回の大会テーマのもと４つの分科会が用意されています。第１分科会は防災のテーマで「連係のチカラー経験を活かす・備えるー」、第２分科会は青年のテーマで「ミライを支える技術者～“変わる力”を導くプロフェッショナル～、第３分科会は地域のテーマで「半導体産業の集積と地域づくりのミライ～高まる技術士への期待～」、第４分科会は人材育成のテーマで「人口減少社会における人材育成～はばたくチカラ～」です。講演会あり、パネルディスカッションありで、それぞれ小委員会のメンバーにより着々と準備が進んでいます。ぜひ、ご興味のある分科会へ参加をお申し込みください。

午後は、式典、分科会報告、記念講演と続きます。記念講演は、九州大学名誉教授・熊本大学客員教授の松田泰治先生にご登壇いただきます。講演タイトルは、「2016年熊本地震の教訓に学ぶ～更なる創造的復興に向けて～」です。熊本地震の発生時は熊本大学で教鞭をとっていらっしゃいましたので、実体験を通してのお話をいただけることと思います。先生のご専門は地震工学・都市防災・リスクマネージメントであり、「2016年熊本地震から得た教訓を振り返り、地域防災力向上に繋げるとともに、新たな社会経済動向を活かした更なる創造的復興に向けて、その課題や展望を探ります。」とお寄せいただいています。開催地熊本にぴったりのご講演と期待が高まっているところです。

ここで、パーティのアトラクションを少しだけご

紹介します。パーティは、両日とも17時30分に開始予定としています。10月25日（土）のウェルカムパーティでは、ジャズをベースとしたヴォーカル＆ギター演奏、翌10月26日（日）の交流パーティでは、優雅で美しい山鹿灯籠踊り保存会による灯籠踊りとヴァイオリン＆クラリネット＆ピアノのアンサンブル演奏の２件で、皆様の交流に素敵な時間をご用意したいと思います。

式典当日、同伴の方々へパートナーズツアーをご用意しています。山鹿市など県北へのツアーで、コースの概略は、豊前街道沿いを散策する街歩き型「米米総門ツアー」、「彩座」での昼食を挟んで、和紙とノリだけで作られる室町時代からの伝統工芸品「山鹿灯籠」民芸館、国指定重要文化財「八千代座」・資料館、装飾古墳が日本で最も集中している菊池川流域の古墳群の中にある「熊本県立装飾古墳館」を見学していただく予定です。

テクニカルツアーは、阿蘇方面に向かうA（10月27日の１日コース）と人吉に宿泊するB（10月27日～28日の１泊２日コース）があります。主なコースをご紹介すると、ツアー Aは国の重要文化財「阿蘇神社」（紀元前282年建造）で平成28年熊本地震からの復興をテーマに研修、「新阿蘇大橋」復旧等事業研修、「熊本地震震災復興ミュージアムKIOKU」に立ち寄り道の駅「あそ望の郷・くぎの」で昼食、「阿蘇火山博物館」（併設展示施設「阿蘇山上ビジターセンター」）見学の後熊本市内へ戻り、熊本県庁敷地内にある「熊本県防災センター」（熊本地震を引き起こしたとされる布田川断層の剥ぎ取り標本が展示されており、27年前に同じ場所で採取された標本と並べてあるため地震の前後で約50cmズレたと比較できます→世界で３例目、並べての展示は世界初）で研修後、解散となります。

ツアー Bは、１日目は午前中座学になりますが、「半導体産業と熊本の未来」についての講演を聴きます。益城熊本インターから人吉方面に向かうため、九州自動車道「宮原サービスエリア」で昼食を取り、午後は八代インターから国道219号線に降りて「球磨川災害復旧工事現場」研修として橋梁工事現場等を視察します。人吉市では、豪雨災害で大きな被害を受け復興を続ける繊月酒造（人吉城の別名繊月城より命名）の施設「繊月城見蔵」見学をしてホテルへ。２日目はホテルから徒歩で移動できる国宝「青井阿蘇神社」（806年創建）へ。ここも豪雨災害で大きな被害を受けており、復興への道のりを研修します。帰りは人吉インターから九州自動車道に乗り、嘉島ジャンクションから九州中央自動車道へ。国宝「通潤橋」視察へ向かいます。江戸末期（1854年）に農業用水を送るために建造された渓谷アーチ橋で、上部に３列の通水管（吹上樋）という独特の構造を持っています。昼食は「国民宿舎通潤山荘」を予定しています。午後は「熊本地震研修」として益城町へ移動します（益城町復興まちづくりセンター）。震度７を２度も経験した町ですが、震災遺構を後世に残し震災の記憶を伝えようとする取り組みだけでなく、新しいまちづくりを通して生まれ変わろうとしている姿を研修します。ここでは地表に現れた地震断層（民家の敷地内）を保存する取り組みが進められ、「天然記念物布田川断層帯　谷川（たにごう）地区」は追体験の場の一つとして見学することができます。最後はツアー Aと同じく「熊本県防災センター研修」で２日目終了です。

なお、テクニカルツアーで訪問する施設や工事現場などでは、ご講演を始め各所で説明をいただくなど多大なご協力をお願いしています。国土交通省九州地方整備局八代復興事務所、熊本県土木部道路整備課、山都町役場の職員の方々や博物館等の学芸員、各施設の職員、益城町の方々など、テクニカルツアーが一層充実するようにお力添えをいただき、ここに感謝申し上げたいと思います。

そのほか、後援のお願いや来賓のご臨席、祝辞のお願いも進めているところです。協賛広告も、記念誌への掲載やパネル展示へのご参加を呼びかけ、お願いできる先を広げていけたらと動きだしています。ぜひ、皆様のご協力も仰ぎたく、お声かけなどもよろしくお願いいたします。また、開催期間中の危機管理も重要な課題の一つです。担当の小委員会を立ち上げ、参加する皆様へも「安全・安心の栞」をご用意できればと取り組んでいます。

全国大会の参加申し込みは７月７日（月）を開始日とし、９月10日（水）までの約２ヶ月間を申込期間として予定しています。九州本部のホームページにある全国大会のバナーから入っていただくと、申し込み手続きへ移動できるように準備を進めているところです。どうぞ、ご縁のある皆様へ、九州、熊本へ行こうとぜひお声かけください。

皆様のご参加を心よりお待ちしています。

所属：株式会社クロスエンジニアリング
（E-mail：j1u1nj1u1n@yahoo.co.jp）

# 協 賛 団 体 会 員

……[福　岡]……
㈱エム・ケー・コンサルタント
㈱カミナガ
㈱建設環境研究所九州支社
㈱建設技術研究所九州支社
㈱久栄綜合コンサルタント
産業開発コンサルタント㈱
㈱サンコンサル
ジーアンドエスエンジニアリング株式会社
第一総合技術㈱
第一復建㈱
大成ジオテック㈱
大和コンサル㈱
㈱高崎総合コンサルタント
㈱テクノ
西鉄シー・イー・コンサルタント㈱
西日本技術開発㈱
西日本コントラクト㈱
㈱西日本測量設計
日鉄鉱コンサルタント㈱九州本社
日本工営㈱福岡支店
日本地研㈱
冨洋設計㈱九州支社
平和測量設計㈱
㈱唯設計事務所

……[北九州]……
㈱永大開発コンサルタント
㈱松尾設計
……[佐　賀]……
朝日テクノ株式会社
㈱エスジー技術コンサルタント
九州技術開発㈱
㈱九州構造設計
㈱コスモエンジニアリング
新栄地研㈱
㈱親和コンサルタント
精工C&C㈱
㈱トップコンサルタント
西日本総合コンサルタント㈱
日本建設技術㈱
シマウチエンジニアリング㈱
……[長　崎]……
扇精光コンサルタンツ㈱
㈱実光測量設計
大栄開発㈱
太洋技研㈱
……[熊　本]……
旭測量設計㈱
㈱ARIAKE
㈱九州開発エンジニヤリング
㈱熊本建設コンサルタント
㈱建設サポートセンター
㈱興和測量設計
㈱ヒライ・コンサルタント
㈱水野建設コンサルタント

……[大　分]……
九建設計㈱
協同エンジニアリング㈱
ダイエーコンサルタント㈱
東洋技術㈱
東洋測量設計㈱
西日本コンサルタント㈱
㈱日建コンサルタント
日進コンサルタント㈱
松本技術コンサルタント㈱
……[宮　崎]……
㈱アップス
九州工営㈱
㈱ケイディエム
㈱国土開発コンサルタント
㈱白浜測量設計
南興測量設計㈱
㈱西田技術開発コンサルタント
㈱東九州コンサルタント
㈱都城技建コンサルタント
……[鹿児島]……
㈱久永コンサルタント
㈱南日本技術コンサルタンツ
㈱アジア技術コンサルタンツ
大福コンサルタント㈱

**次 回 の 予 告**
**（第145号　令和7年10月）**

○2025年度　九州本部第１回ＣＰＤ

# 編 集 後 記

九州地方も梅雨入りし、本格的な雨のシーズンとなりました。能登半島地震からの復旧・復興は道半ばであり、私たち技術士の役割が改めて問われています。激甚化する自然災害に加え、大規模な道路陥没事故のように、高度経済成長期に整備されたインフラの老朽化対策も喫緊の課題です。AIの進化やDX推進といった技術革新が加速する一方で、地域に根差した課題解決も重要です。技術士だより・九州では、九州沖縄各県で活躍する会員の方々の、各地での小さな活動を取り上げ、お知らせできればと考えております。ぜひとも記事をお寄せ下さい。私たち技術士は、社会の複雑な課題に対し、専門知識と倫理観を持って「信頼を得続ける」努力を重ねていかなければなりません。次号以降も、皆様にとって有益な情報をお届けできるよう、広報委員会一同、精進してまいります。　（松田）

**編集：広報委員**
【福　岡】久保川孝俊、棚町　修一、西尾　行生
原田　正則、松田　敦
【北九州】宮﨑　照美　【佐　賀】合志　勉
【長　崎】清水　正明　【大　分】竹内　一博
【熊　本】沼地　英二　【宮　崎】満留　康裕
【鹿児島】高畦　博

発　行：公益社団法人 日本技術士会九州本部
〒812-0011　福岡市博多区博多駅前3-19-5
（博多石川ビル6階D2号室）
九州本部：　☎(092)432-4441
FAX(092)432-4443
E-mail:pekyushu@nifty.com
九州本部ホームページURL：
http://www.pekyushu.com/
印　刷：株式会社チューエツ